舞台
TIGER & BUNNY THE LIVE
公式ビジュアルブック

©SUNRISE/T&B PARTNERS, MBS

舞台
TIGER & BUNNY
THE LIVE
公式ビジュアルブック

舞台 TIGER & BUNNY THE LIVE
公式ビジュアルブック

02 Hero gravure

18 ヒーロー対談1
平田広明×森田成一

24 ヒーロー対談2
富永研司×新田健太

52 オールヒーロー座談会
平田広明×森田成一×岡本玲×永徳×林野健志×佃井皆美×高崎翔太×横山一敏

56 Cast & Staff comment

62 making of THE LIVE

77 Introduction

78 TIGER & BUNNY THE LIVE

Kotetsu T. Kaburagi

鏑木・T・虎徹

●平田広明（ひらた・ひろあき）

1963年8月7日生まれ、東京都出身。主な出演作品は、TVアニメ：「TIGER & BUNNY」（ワイルドタイガー／鏑木・T・虎徹 役）、「ワンピース」（サンジ 役）、「宇宙兄弟」（南波六太 役）、海外ドラマ：「ER緊急救命室」（ジョン・カーター 役）ほか。ジョニー・デップやマット・デイモン、ジュード・ロウなどの吹き替え多数。その他、舞台やナレーションなどでも活躍中。第11回東京アニメアワード声優賞（「TIGER & BUNNY」ワイルドタイガー／鏑木・T・虎徹）、第6回声優アワード主演男優賞を受賞。

Kotetsu T. Kaburagi

WILD TIGER

ワイルドタイガー

Belonging：アポロンメディア
Ability：ハンドレッドパワー
Catchphrase：正義の壊し屋

WILD TIGER

ワイルドタイガー

●富永研司（とみなが・けんじ）
1970年5月9日生まれ、福岡県出身。主な出演作品は、映画：「新宿インシデント」、「20世紀少年」、「大帝の剣」、「亡国のイージス」（梶良巳 役）、「ＬＡＳＴ　ＳＡＭＵＲＡＩ」、「壬生義士伝」、「エイトレンジャー∞」、ＴＶ：「仮面ライダークウガ」（仮面ライダークウガ 役）、「戦国★男士」（畠山義継 役）、「タイムスクープハンター」、大河ドラマ「龍馬伝」、舞台：「吉原御免状」ほか。

SoftBank
SoftBank
SoftBank
S.H.Figuarts
SoftBank

Barnaby Brooks Jr.

バーナビー・ブルックス Jr.

●森田成一（もりた・まさかず）
1972年10月21日生まれ、東京都出身。主な出演作品は、「FINAL FANTASY」シリーズ（ティーダ 役）、「BLEACH」（黒崎一護 役）、「戦国BASARA」シリーズ（前田慶次 役）、「リングにかけろ１」（高嶺竜児 役）、「聖闘士星矢」（ペガサス星矢 役）、「MAJOR」（佐藤寿也 役）、「キングダム」（信 役）ほか。その他、吹き替え、ナレーション、舞台、ドラマ、映画などでも活躍中。

Barnaby Brooks Jr.

Barnaby Brooks Jr.

Barnaby Brooks Jr.

バーナビー・ブルックス Jr.

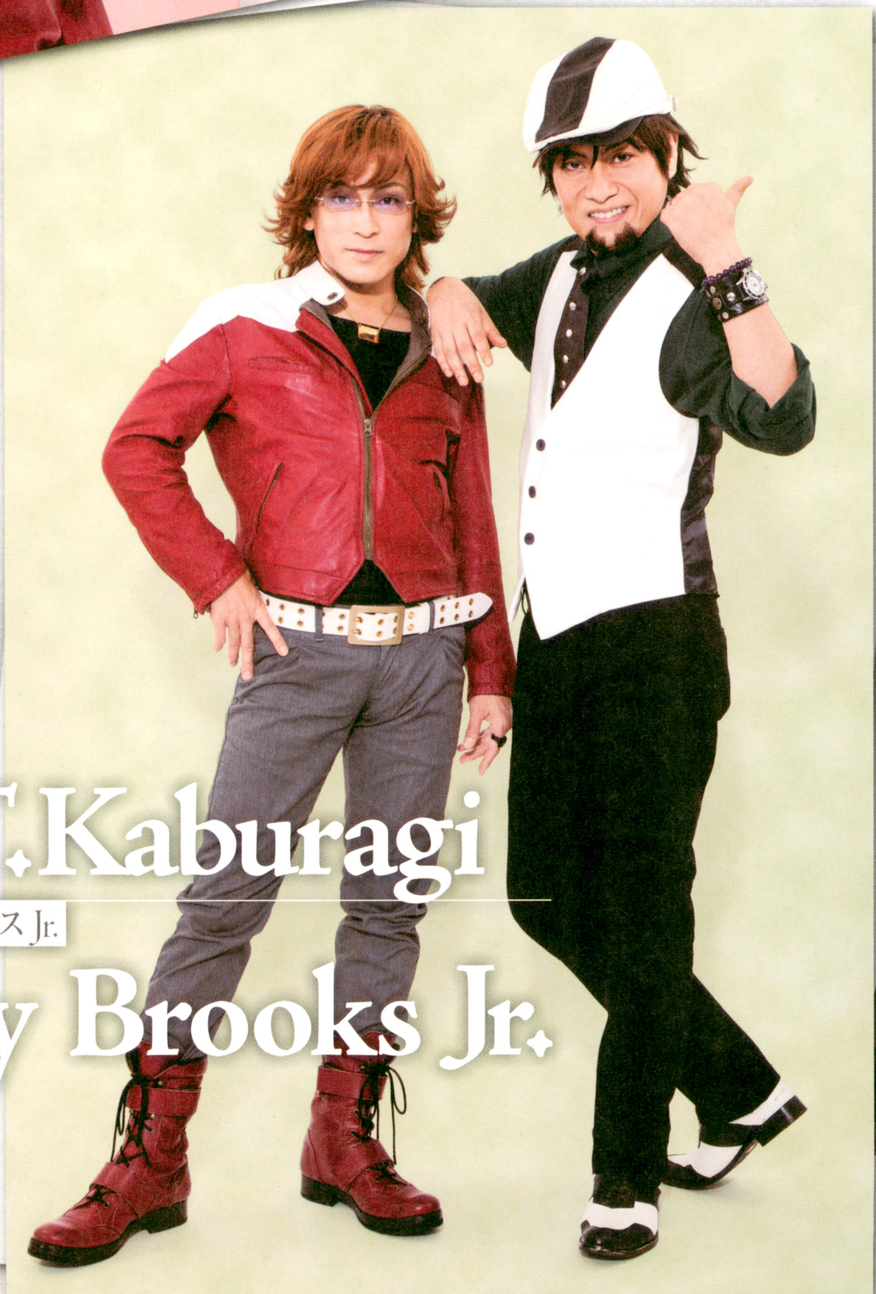
Belonging：アポロンメディア
Ability：ハンドレッドパワー
Catchphrase：スーパールーキー

BANDAI
amazon.co.jp

Barnaby Brooks Jr.

バーナビー・ブルックス Jr.

●新田健太（にった・けんた）
1985年8月22日生まれ、大阪府出身。主な出演作品は、映画：「さや侍」、「ＳＰＥＣ～天～」、ＴＶ：「戦国★男士」（白河義親 役）、「ダーティ・ママ！」、「クロヒョウ２　龍が如く～阿修羅編～」、舞台：「新宿バックストリート」（滝沢健一　役）、30-DELUX The Ninth Live「デスティニー」、TEAM NACSニッポン公演「ＷＡＲＲＩＯＲ～唄い続ける侍ロマン」ほか。



Kotetsu T. Kaburagi

鏑木·T·虎徹 & バーナビー·ブルックス Jr.

& Barnaby Brooks Jr.

鏑木・T・虎徹 & Kotetsu T.Kaburagi &

Barnaby Brooks Jr.

バーナビー・ブルックス Jr.

ヒーロー対談 1

鏑木・T・虎徹役 平田広明

——これまでは声でキャラクターを演じてきたお2人ですが、お互いに舞台の衣裳を着ている姿を見ていかがでしたか？

森田　純国産の僕でも、それなりに外国の方になれるもんだなあと思いましたが、平田さんは本当に虎徹さんそのままでビックリしました。

平田　そう？　自分的には、頑張ってる感ばかり出てるなあと思ってね（笑）。というか、僕たち以外の方はビジュアルも考慮に入れて選ばれているので「想像以上のものになるだろう」というところまで含めて想定内だったんですが、まさかバニかず（森田さんのニックネーム）がここまで似せてくるとは……。おい、俺たち別枠じゃなかったのかよ！

森田　えっ、なんでうまくいったのに責められてるんだろう……（笑）。でも一番最初にビジュアルが公開されたときに、ファンの方たちから「再現率の高さに驚いた」という声をいただけたのは嬉しかったです。役者はもちろん、メイクさんや衣裳さんたちの努力が報われた瞬間だったなと。その後も実際の舞台に向け、衣裳の改良を重ねていただいているそうなので、本番にはどんな出来になっているのか楽しみです。

——全体の顔合わせでは、どんな印象を受けられましたか？

森田　役者からスタッフ、関係各社のみなさんまで全員揃っていたんですが、こんなに人が多い顔合わせは、そうそうないと思いましたね。この舞台への力の入れようを身にしみて感じました。

平田　80人くらいいたよね！　僕自身、これまでにも座長を経験していますが、座組としてはせいぜい20人くらいまでですよ。記者会見みたいなテーブルに座らされてマイクを渡されたとき「俺をつぶす気か!?」と思いました……。

森田　いやいや（笑）。顔合わせでほかの役者さんたちおひとりおひとりの挨拶を聞いていると、みなさん本当に熱意にあふれていて。僕自身もさらに気合が入ったし、素晴らしい作品を作ることが出来るに違いないと確信しましたね。

——役者のみなさんとは、どのように打ち解けられましたか？

森田　最初に立ち飲み屋で男子会をやったのが良いきっかけになりました。男子会といっても、ネイサンという名の女性もいましたが（笑）。騒がしいくらい盛り上がってお互いの人と成りを知ることができたので、それからは稽古場でも冗談を言い合ったり、演技の話ができるようになっていったように思いますね。平田さんも早く飲み会に来てくださいよ！

平田　そうだね、まだ行けてないからなあ。バニかずが親睦会、開いてよ。

——どのような意気込みを持って、舞台版にのぞまれているのでしょうか？

森田　顔合わせのときにも宣言させていただいたんですが、僕は既存の『TIGER & BUNNY』をそのまま作る気持ちはまったくなくて、舞台版は舞台版の、新しいバーナビーを演じていきたいんです。それが、僕が本作に参加するにあたってのひとつの目標だと思っています。ただ、今いきなり壁にぶつかっていて……。実際に身体を使って演じてみると、ここまで自分の中にあるバーナビーのイメージとシンクロしないものかと。びっくりしながらも、挑むべき課題をみつけてワクワクしているところです。

平田　僕もまだ役がしっくりこない感覚を持っていて、おそらくバニかずが感じているものと同じだろうなって思います。アニメでキャラクターの半分を演じていたはずの本人がやっているのに、出来上がりを見ると何か違うという違和感は、第三者がやったときよりも強いんです。これまでは「誰かに似せて作る」という役作りはしてこなかったんですが、今回は、どこかで元のキャラクターをなぞらなければいけなくて、でも、なぞる対象の半分は自分だし。複雑な状況だと思いますね。

——アクションの稽古はいかがですか？

森田　アクションのプロフェッショナルであるJAEのみなさんが演じることで、実際のヒーローのバトルを体感していただけるのが、この作品の面白いところだと思うんです。だからこそ、僕ももっとまざりたかったな。素面のバーナビーは思っていたよりアクションが少ないので、「あの蹴り、やりてえなあ」って、（バーナビー・ヒーロー役の）新田さんを羨ましく見ているんです。

平田　俺の殺陣、お前に半分やるよ？

森田　ダメですよ！（笑）虎徹さんとバーナビーでシンクロしないといけないんですから！

平田　僕は稽古の中で「そうだ、殺陣があるんだった」って、いまさらのように気づきました。もう（ワイルドタイガー・ヒーロー役の）富永さんに全部やってもらいたいくらいです。

森田　今は殺陣の「手」を覚えたところなので、これから動きのひとつひとつに、如何にキャラクターらしさを表現していくかという段階に入っていきます。新田さんとも体を通してひとつのバーナビーとして見て

バーナビー・ブルックスJr.役

森田成一

いただけるよう、2人の共通の「身体の言語」を考えていこうと約束しました。アニメでのバーナビーは攻撃の際、あまり「フッ」「ハッ」といったアドリブは入れなかったんですが、それがないと決まった感じがしない。そこで元々のキャラクター性を考慮した上で、どれだけ舞台版のバーナビーができるのか、総合演出の森崎さんにも相談しながら、作り上げていきたいです。

――今回のストーリーについては、どのように感じられましたか？

平田　立体化するだけでも難しいと思うんですが、よくぞまあ、ここまで作品の世界観を踏襲して描いたなあという印象を受けました。人情話があって、虎徹の楓に対する愛情があって、ライバルでありながらも強く結ばれた8人のヒーローたちの絆があって……と、「タイバニ」を絞ったら出てくる一番濃いエキスのような部分で満たされていると思います。

――TVシリーズの14話と15話の間にあたるエピソードとのことですが、その点は、演じられる上で意識されましたか？

森田　バーナビー的には、虎徹を「虎徹さん」と呼んでいる段階にあるので、動きやすいところで良かったなと思います。序盤まで戻っていたら、もっと難しかったでしょうね。

――舞台のオリジナルキャラクターについては、どうですか？

平田　ブライアンについては、少ないセリフの中にも「悪役にも止むに止まれぬ事情がある」というところがしっかり表現できていたらいいだろうなと思います。虎徹がブライアンを「落とす」ところが、この物語のひとつのクライマックスだと思うので、そこまでにいかにお客さんの気持ちを持っていくか……。僕も一緒になって考えていきたいですね。バベルが「ガハガハ」って笑って憎ったらしい悪役を突き詰めるほど、ブライアンという人間との対比が生まれるので、バベルも重要な役どころだと思います。

森田　バベル役の藤原さんも最初の時点で仰っていましたよね。「悪いけれども憎めない、可愛らしい悪役を作りたい」って。今日の稽古でもやりすぎちゃっていて面白かったなあ。笑いが起きていました。

平田　初日と千秋楽で一番、芝居が変わっているのは、バベルみたいな役ですよ。役者としては、一番やりたい。考えるだけでも羨ましくて腹が立ちますね！　僕も負けじと、本番で芝居を変えていこうかなあ。

森田　いやいや、ダメですよ（笑）。虎徹さんに急に変わられたら、絡むこっちとしてはたまったもんじゃない。

平田　じゃあ千秋楽だけ。

森田　ダメです！（笑）

――パンフレットの撮影でヒーロースーツを着て、気持ちの上で変わった部分はありますか？

平田　実際に着てみて「ヒーローってこういうものなんだ」と感じられたことは大きかったですね。アニメーションの仕事の範疇では、絶対に経験できないことだったので。バニかずなんて、仕事中とは思えない笑顔でテンション上がってたよね。

森田　やっぱり、ヒーローは「男の子の夢」ですからね！　しかもそれが、自分が演じている役だというのも、なかなかあることではないから。今は、千秋楽を終えたとき、自分の中にどんな気持ちが残るのかが楽しみなので、そこに向けて、まっすぐに突き進んでいきたいですね。そのときはじめて、新しいバーナビーがうまれるようにも思うんです。

平田　真面目なヤツだなあ……。ほんと君はバーナビーのまんまだよね。常に全力で一生懸命やっていて。僕の不真面目さが目立つので、稽古場ではなるべく近寄らないようにしてるんですけどね！

森田　いつもそんなことばっかり言うんだから（笑）。平田さんとは舞台としては初共演になりますが、声優の現場でお会いするよりも厳しい空気を放っておられるように感じています。課題は多いですが、平田広明という大先輩の役者さんが、どう壁を乗り越えていくのか、勉強させていただきたいです。

――ファンのみなさんへメッセージをお願いします。

森田　舞台版、劇場版が集大成というのではなく、まだまだ新たな世界の序章にすぎないのではないかという予感めいたものを抱いています。アニメで人気が出たからといってズルズルと続けるのではなく『タイバニ』は、常に新しいものをつくっていく」というコンセプトのもと、これからも走り続けたいと思います！

平田　まず最初に劇場版を二本やると聞いたときはぶっ飛びましたし、舞台版をやると聞いたときはさらにぶっ飛びました。そのときは、まさか自分が出演することになるとは思いもしませんでしたが……。長年舞台の役者をやっているので、どのくらい大変な公演になるかは想像がついています。この本が発売される頃には、きっと僕たちはボロボロになっているでしょう……。どうか僕たちのことを思うなら、「舞台版の第二弾を！」とは言わないでください。今回の公演で燃え尽きる勢いでやりきりますから！

森田　（笑）。頑張りましょう！

（8月上旬、稽古場にて）

SoftBank
SoftBank
amazon.co.jp

WILD TIGER & Barnaby Brooks Jr.

ワイルドタイガー ＆ バーナビー・ブルックスJr.

SoftBank
BANDAI
S.H.Figuarts
Crusade

WILD TIGER & Barnaby Brooks Jr.

ワイルドタイガー & バーナビー・ブルックス Jr.

ワイルドタイガー（ヒーロー）役 富永研司

—まずは、「スーツアクター」というお仕事の内容について教えてください。

富永　ひと言で言えば、TVや映画に登場するヒーローやキャラクターのスーツ、いわゆる「着ぐるみ」を着て演技やアクションをする仕事です。

新田　そのほかにも俳優として素顔で出演したり、スタントマンとして他の俳優さんの危険なシーンを代わりに演じたりするのも僕たちの仕事ですね。

—お2人は、どのようなきっかけでこのお仕事に就いたのですか？

富永　僕は九州出身なんですが、もともと邦画が大好きで、映画俳優になりたかったんです。でも、東京に親戚も知り合いもいないし、俳優になるためにはどうすればいいのかも知らなくて。高校を卒業して、地元で就職しましたが、やっぱり俳優になりたいと思って、たまたま住所を知った「ジャパンアクションクラブ」（現在のJAE）に「入れてください」とハガキを書いたんです（笑）。

新田　ハガキですか!?

富永　そうハガキ（笑）。とにかく右も左もわかんなかったから。それで電話がきて、「オーディションがあるから受けてみないか」と言われて、そのままここにいます。でもこんなにいっぱい芸能事務所があるなら、最初にもっとちゃんと調べればよかったかな（笑）。

新田　僕は大阪出身で、東京の大学に通っていて就職も一般の会社に内定をもらっていたんですが、実は勉強が大の苦手で……。

富永　剣道推薦で大学に入ったんだよね？

新田　そうです、そうです。

富永　最近は、他にもいい大学出ている後輩いるんだよね。一緒に飲んだときにも言ったけど、なんで大学出てJAEなんて入ってんの（笑）？

新田　よく言われますけど……（苦笑）。実は留年をしてしまって、内定が取消しになったんです。周りには「大学出てまで……」ってすごく反対されたんですけど、夢を捨てきれなくてJAEに入りました。

—お2人は、昨年11月に開催されたイベント「TIGER & BUNNY HERO AWARDS 2011」でも、スーツを着てワイルドタイガーとバーナビーを演じられたんですよね。

富永　そうですね。そもそも1年半くらい前だったと思いますが、会社の役員が「TIGER & BUNNY」を観ていて、「お前も観ろよ！」と勧められたんです。僕は「そんなアニメがやってるんだなあ」というくらいの認識だったんですが、その後「今度、イベントでキャラクターを出すからやってくれ」と言われて。

新田　イベントへの登場は完全なサプライズだったので、舞台に登場した瞬間の歓声はすごかった！　あのマスク越しでもかなり聞こえましたから。

富永　あの時に着けていた目が光るタイプのマスクは、電飾が入っているのでほとんど見えないし、よく聞こえないからね。それでもみなさんの声援の大きさを感じて、リハーサルで暑い中、スーツを着っぱなしで大変な思いをした甲斐があったなと思いました。よくスタッフとも言っていますが、ヒーローはスーツを装着するとパワーがみなぎるけど、着ている中の人のほうはパワーが落ちていくんです（笑）。

—そんなスーツを着て、アクションしたり、芝居を演じられるわけですが、それに加えて声に合わせて演技をする難しさはないのでしょうか？

富永　映像の作品では、自分たちが先に演じて、それから変身前の役を演じている役者さんがアフレコで声をつけます。今回の舞台ではまだどうなるか決まっていません。（インタビュー収録時点の話。その後、本舞台では先に平田さん、森田さんが声を収録し、それに合わせて富永さん、新田さんが動くことが決定）ちなみに「HERO AWARDS」では、平田さんと森田さんが生で声をあてていました。もちろん台本はあったしリハーサルもやりましたが、アドリブにもその場で合わせているんです。

—今回の舞台では、平田さん、森田さんと再び共演になりますね。

富永　平田さんは舞台の顔合わせの挨拶でおっしゃってたけど、舞台化されるかもという話を聞いた時は他人事のように思ってたらしいよ。

新田　そしたら「俺か!?」って……。それはたしかに驚かれたでしょうね（笑）。

富永　でも、劇団昴にいた人だから

新田健太

バーナビー・ブルックスJr.（ヒーロー）役

舞台出演も豊富ですし、森田さんも舞台経験がたくさんある方なので、この世界観を大事に作るには適任だと思います。

──富永さんと新田さんの、お互いの普段の印象は？

富永　がっつり絡むのは今回が初めてですが、入ってきてすぐの頃から手伝いに来ていたので、知っていました。実は、去年も「戦国★男士」（10年、tvk）というドラマで共演してるんですよ。今回の舞台では「おじさん」とか言われてますけど、「戦国★男士」では違う学校の同じ高校生役で出ていますからね。自分が一番ビックリしました。

一同　（笑）

富永　イベントなどでたまに一緒になることもあって、終わってから飯に行ったりしたよね？

新田　そうですね。富永さんは普段、食事やこのような場所では喋るんですけど、稽古中は寡黙ですよね。

富永　稽古場ではぺちゃくちゃ喋るもんじゃないだろう。何を喋るんだ？

新田　いや大きな声で笑ったりする人もいるけど、富永さんはそういうイメージがないんですよ。

富永　ああ、そう言われればあまり笑わないかも……。そういう意味では俺なりに使いわけてるんだよ。

新田　たしかに飲みの席ではすごいですからね……（笑）。

富永　どうすごいかは、ここでは語るなよ（笑）。

──ベテランの富永さんと新鋭の新田さんがバディを組むというのは、虎徹とバーナビーの関係性とも重なる部分ですね。

新田　バーナビーはすごいと思います。先輩後輩の関係性を超えて「おじさん」とか、絶対、自分たちは言えないじゃないですか（笑）。

富永　役者だと、そんなに先輩後輩は関係ないと思うけどね。組織としてはあるだろうけど、同じ舞台に立ったり、同じスクリーンに映っている時は、上下の関係はないはず。俺はそう思ってるよ。

新田　そう言っていただけるので、役をやる上では、思いっきりやらせていただくつもりです！

──「TIGER & BUNNY」という作品の魅力はどんなところにあると思いますか？

富永　ヒーローの活躍だけではなくて、特殊能力をたまたま持ってしまった等身大の人間ドラマが魅力だと思っています。そこも見せられたらいいよね。

新田　僕はバーナビー役が決まってから全話通して観たので、どうしてもバーナビーを主体に観てしまうんですけど、それでもヒーローひとりひとりが主役を張れるくらいの個性があるんですよね。

富永　伏線がたくさん張られているんだよ。Mr.レジェンドとルナティックの関係とか、Mr.レジェンドに憧れてヒーローになった虎徹とルナティックの関係とか、とてもハードな一面もある。

新田　映像も綺麗で、個人的に印象的だったのが、バーナビーのマスクから涙が出たように見える演出があるんですよ。実際ではありえないことなんだけど、こういう表現の仕方もあるのかと感動しました。

富永　すごくこだわりがあるんだと思う。じゃあ、舞台では新田健太が、涙ではなく汗を会場全体にブワッと降らせよう！

新田　指をピンと弾くと、汗がピャーッと飛んでいくんですね（笑）。

──ファンのみなさんへメッセージを。

富永　お客さんに「すごいのを見た！」と興奮してもらえるような作品になればいいよね。関係者も演者もみんな、やってよかったと思えるような作品に、きっとなるはずです。

新田　舞台のストーリーもオリジナルの脚本で、映像もアクションもこだわって作っているので、これでまた新しい魅力を見つけてもらえたら嬉しいです。僕たちが会場をシュテルンビルトにして、お客さんをこちらへ引っ張ってきて、みんなで一緒に盛り上がれるようにしたいです！

（7月下旬、撮影スタジオにて）

Karina Lyle

カリーナ・ライル

●岡本玲（おかもと・れい）
1991年6月18日生まれ、和歌山県出身。2003年にティーン雑誌の専属モデルオーディションでグランプリを受賞。2007年、TV「生徒諸君！」でドラマデビュー。主な出演作品は、TV：「赤い糸」（山岸美亜 役）、「フリーター、家を買う。」（星野あかり 役）、「クロヒョウ2 龍が如く～阿修羅編～」（水嶋彩 役）ほか。2012年10月スタートのNHK朝の連続テレビ小説「純と愛」に待田誠 役で出演。

BLUE ROSE

ブルーローズ

Belonging：タイタンインダストリー
Ability：氷を操る
Catchphrase：ヒーロー界のスーパーアイドル

pepsi
NEX
pepsi NEX

Huang Pao-Lin

ホァン・パオリン

●佃井皆美（つくい・みなみ）
1987年12月18日生まれ、埼玉県出身。主な出演作品は、映画：「芸者ＶＳ忍者」（山部琴乃・主演）、「劇場版　さらば仮面ライダー電王」、ＴＶ：土曜時代劇「陽炎の辻３」（霧子 役）、「仮面ライダーW」、舞台：「わが町」（エミリー 役）、ＶＩＳＵＡＬＩＶＥ「ペルソナ４」（里中千枝 役）、柿喰う客 女体シェイクスピア「絶頂マクベス」（マクダフ 役）、「リンダリンダ」（ナナミ 役）ほか。

DRAGON KID

ドラゴンキッド

Belonging：オデュッセウスコミュニケーション
Ability：稲妻を操る
Catchphrase：稲妻カンフーマスター

DMM.com
Calbee
DMM.com
Calbee

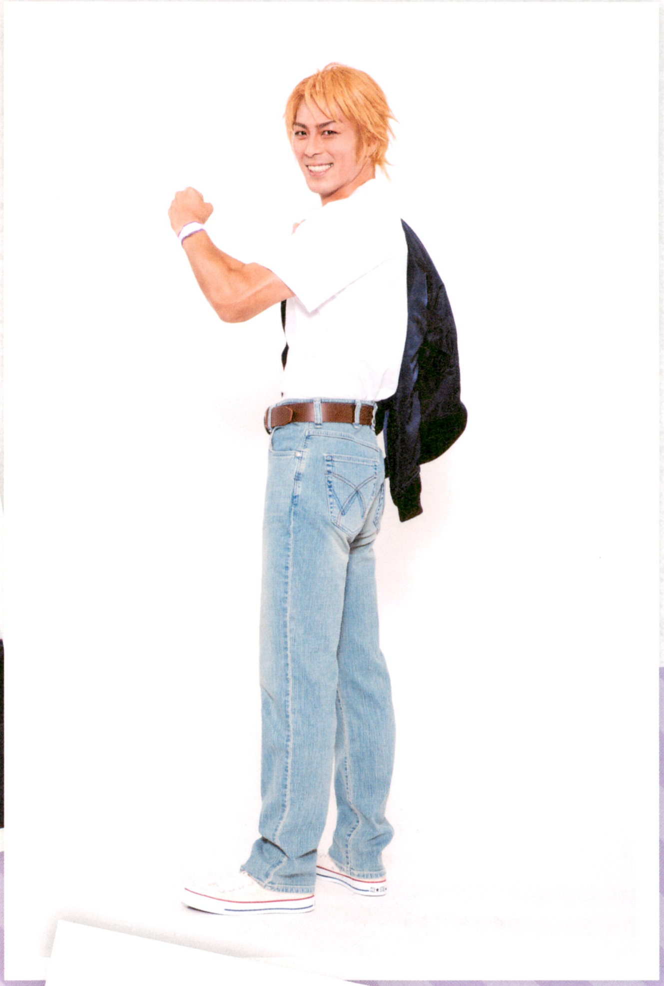
Karina Lyle & Huang Pao-Lin

カリーナ・ライル & ホァン・パオリン

Keith Goodman

キース・グッドマン

●永徳（えいとく）
1978年1月16日生まれ、千葉県出身。主な出演作品は、映画：「プルコギ-THE 焼肉MOVIE」、TV：「特捜戦隊デカレンジャー」（デカブレイク 役）、「仮面ライダー響鬼」（怪童子 役、仮面ライダー斬鬼（後期）役）、「西遊記」、「仮面ライダー電王」（ウラタロス 役）、「仮面ライダーディケイド」（仮面ライダーディエンド 役）、「仮面ライダーフォーゼ」（仮面ライダーメテオ 役）ほか。



U.S. AIR FORCE

SKY HIGH

スカイハイ

Belonging：ポセイドンライン
Ability：風を操る
Catchphrase：キング・オブ・ヒーロー

USTREAM

Ivan Karelin

イワン・カレリン

●高崎翔太（たかさき・しょうた）
1988年9月21日生まれ、新潟県出身。主な出演作品は、映画：富士見二丁目交響楽団シリーズ「寒冷前線コンダクター」（守村悠季 役・主演）、「骨まで愛して」（健太 役）、「ゲキアツ～真夏のエチュード～」（松井道博 役）、タクミくんシリーズ「あの、晴れた青空」（簑巌玲二 役）、「LOVEToRAIN」、舞台：「ミュージカル　テニスの王子様」（菊丸英二 役）ほか。

折紙サイクロン

Belonging：ヘリペリデスファイナンス
Ability：擬態
Catchphrase：見切れ職人

Japan

Keith Goodman & Ivan Karelin

キース・グッドマン & イワン・カレリン

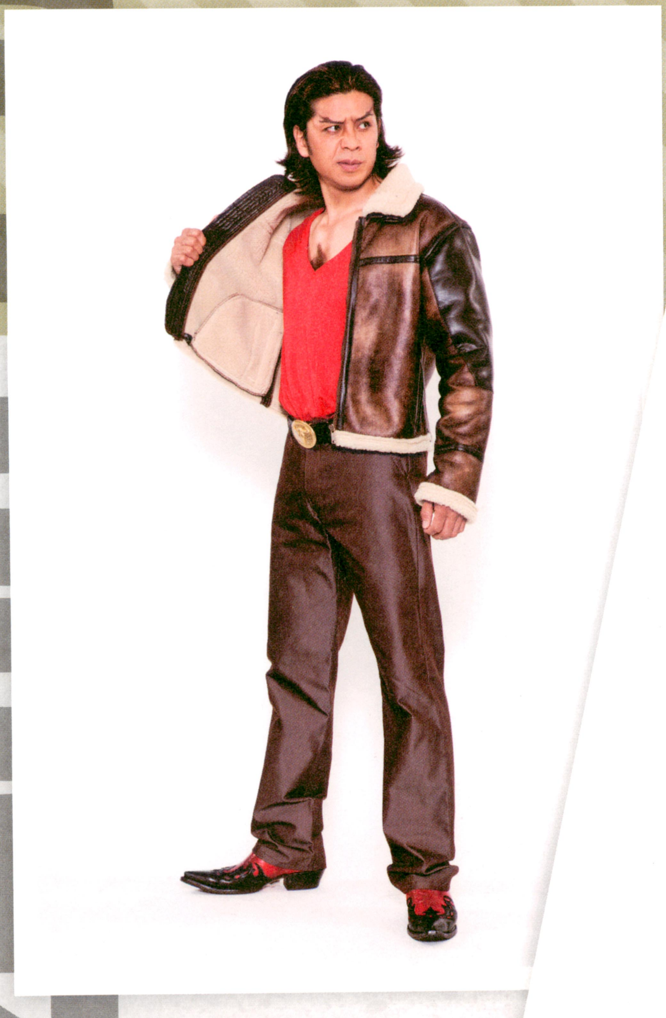
Antonio Lopez

アントニオ・ロペス

●横山一敏（よこやま・かずとし）
1966年5月29日生まれ、広島県出身。主な出演作品は、映画：「ＫＧ」（武藤竜士 役）、「任侠沈没」、TV：大河ドラマ「江」（加藤清正 役）、大河ドラマ「龍馬伝」（土佐藩役人 役）、土曜時代劇「陽炎の辻３」（偉陽明役）、「仮面ライダーフォーゼ」（立神吼／レオ・ゾディアーツ（声）役）、舞台：「戦国自衛隊〜女性自衛官死守セヨ」（近藤八十重役）、「らん」（石影 役）ほか。

ロックバイソン

Belonging：クロノスフーズ
Ability：強靱な皮膚
Catchphrase：西海岸の猛牛戦車



Nathan Seymour

ネイサン・シーモア

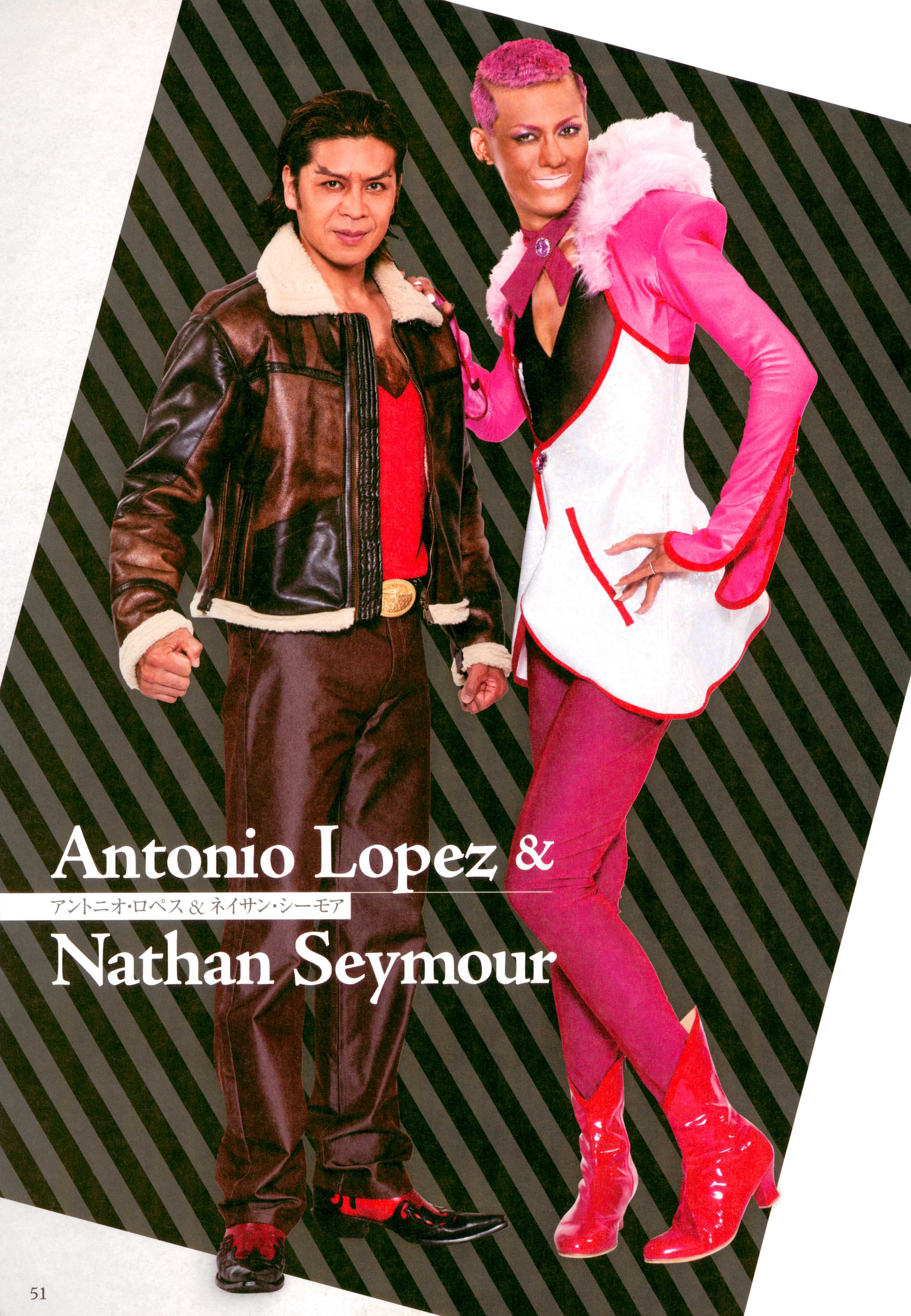
●林野健志（はやしの・たけし）
1980年1月5日生まれ、福岡県出身。主な出演作品は、映画：「乱暴者の世界」（戸川恵介 役・主演）、TV：「ナサケの女」（夢野流偉 役）、舞台：「ミュージカル　テニスの王子様」（知念寛 役）、「灰とダイヤモンド」（エメラルド 役）、「スーパーミュージカル　聖闘士星矢」（楯座のヤン役）、「モンスターボックス」（毘沙焔 役）、「舞台版 コードギアス 反逆のルルーシュ 騒乱前夜祭」（扇要 役）ほか。

FIRE EMBLEM

ファイヤーエンブレム

Belonging：ヘリオスエナジー
Ability：炎を操る
Catchphrase：ブルジョワ直火焼き

animate



Antonio Lopez & Nathan Seymour

アントニオ・ロペス＆ネイサン・シーモア

オールヒーロー座談会

カリーナ・ライル／ブルーローズ役 岡本玲 × キース・グッドマン／スカイハイ役 永徳

イワン・カレリン役 高崎翔太 × アントニオ・ロペス役 横山一敏

――平田さん、森田さん以外の6名の方にお伺いします。ご自身の演じるキャラクターの印象と、そのキャラクターの好きなところは？

永徳 キースは正義を愛する男で、ヒーローど真ん中みたいな考えで動いているところに惹かれます。僕も小さいころに正義のヒーローを見て、「カッコイイな」「やりたいな」と思ってこの世界に飛び込んできたので、キースみたいな男は憧れです。空気を読まない発言をしたり、天然だと言われたりしていますが、絶対的なヒーローではない、飾らないところが好きですね。

横山 アントニオは、学生時代に虎徹と喧嘩してるんですよね。その話を聞いたときは楽しかったです。殴り込みをかけるような古風なところも好きですね。変身したら厳つい「牛角」さんになって、見てると肉を食いたくなります(笑)。俺も肉が好きだし、酒もロックで飲むし、自分でも似てるなと思います。

岡本 カリーナの細かい設定を聞いたとき、「すごくわかる!」って思ったんです。私も高校生のときはツンツンしてたので……。

横山 ええっ、本当!?

岡本 はい、そうなんです。人見知りで、強く見せたいという気持ちもあったのか、ちょっと生意気なことを言っちゃったりして。だから、そういう部分は、すごく好きだし、「わかるなぁ」と思って台本を読むことができました。虎徹への思いもわかります。ああやってツンツンしていると、周りから強く言われたり怒られたりということがないですよね。でも虎徹にハッキリ言われたことで、逆にドキッとしてしまうというのが共感できました。

佃井 「ヒーロー」というと、非の打ち所がなくて、かっこよくて、雲の上の存在、というイメージがあったんです。でも、「TIGER & BUNNY」を見ていると、個々のキャラクターに人間味があり、私が演じさせてもらうホァンちゃんも若くて、少女の等身大な部分もあって、可愛いなぁと思うキャラクターです。「女の子らしくしなさい」と言われて引け目を感じたりするところも愛おしいです。カンフーアクションもたくさんあるので、そこでもホァンちゃんらしさを見せられたらいいな、と思います。

林野 「TIGER & BUNNY」は、キャラクターそれぞれの人生模様があって、ネイサンも、ヘリオスエナジーのオーナーになって巨万の富を手に入れてるのに、なんでヒーローやってるの、というところに波瀾万丈な人生を感じますね。きっと、人と関わるのが好きなんでしょうね。ヒーロー全体を見てアドバイスしてあげる、本当に「姉さん」的な存在のキャラクターだと思います。

高崎 イワンは、めちゃくちゃ一生懸命で、すごく真面目な人だと思うんですよ。ネガティブという面もポイントになっていると思うんですけど、アニメの第8話で描かれていた過去がありながらもヒーローになったし、見切れるのも「ロゴを見せないと」という真面目さゆえだと思うし、そういう一生懸命な部分が好きです。ブログが炎上してショックを受けてるところも、和風好きなところも愛らしいキャラクターだと思います。でももうちょっとアニメに出てほしかったなぁ(笑)。

――ヒーロー8人を演じる皆さんの、おひとりずつの印象をお聞かせください。では、まずはイワン役の高崎さんの印象はいかがでしょう?

永徳 完全な弟分ですね。稽古場でも、僕からすると可愛い弟。

高崎 いろいろ教えていただいてます。

横山 良く動くんですよ。飛んだり跳ねたり。身体能力が高いですね。

永徳 鍛え甲斐があります。素直に「教えてください」って来るんですよ。今時、珍しいな、と。普通、初対面同士だと、どうやって声をかけたらいいのか迷ったりすると思うんですけど。

森田 ヒーローの中では年下のほうだけど、キャスト全体で見ると中間くらいの年齢なんですよね。みんなの間に入って楽しそうにしているので、全体のムードメーカーみたいな存在です。

高崎 (ニコニコ)

永徳 否定しないんだ!?(笑) 自由で、いつもフワフワしてるよね。

高崎 そんなことないですよ、いつもビシッとしてますよ! ……では、ネイサン役のタケさんの印象はどうですか?

永徳 何いきなり仕切ってるの?(笑)

高崎 ムードメーカーと言ってもらったので、回していこうかな、と……(笑)。みなさんどうですか?

横山 デカいですね。ヒール履いたら2mだから。

岡本 いつもこんなですもん(と、鼻から下を手で隠す)。

林野 どういうことよ?

岡本 パーテーションがあるんですが、大きすぎてそこから目だけ見えてる。

高崎 結果、「大きい」ですね!

林野 まだ全員に聞いてないでしょ!(笑)

森田 すごく真面目で、落ち着いてるんですよ。身長が高いので、いつもちょっと高いところから全体に目を配っているような感じを受けますね。

永徳 サッカーにたとえるとミッドフィルダー的な。

林野 嬉しいです。いつもキーパーしかやれないんで。

森田 キーパー? ゴールじゃなくて?

一同 (笑)

高崎 結果、「デカい」ですね!

――パオリン／ドラゴンキッド役の佃井さんはいかがでしょう?

林野 生足で元気な裸足っ子。ひまわり持ってギャーッて走ってそう。

高崎 たしかに!

佃井 あの、実は私、最近稽古に合流したばかりなので、まだみなさんとの間に壁があって……。

鏑木・T・虎徹役
平田広明

×

バーナビー・ブルックス Jr.役
森田成一

一同 （笑）

佃井 まだ打ち解けられてないので、これからがんばろうと思ってるところです！

永徳 僕とネイサンとキッドで出る場面があるんですけど、3人揃わないと流れが作れないので、昨日も「すみません、もう1回やらせてください」って。早くみんなに追いつこうと一生懸命で、そういう姿勢がいいなと思いますね。

林野 ストイックですよね。覚えるのが早くて、動きも早い。

森田 殺陣がすごく綺麗。

横山 手足が長いからね。

森田 流れるように、回るように動く殺陣はものすごく綺麗なので、目を奪われます。

佃井 ありがとうございます。

岡本 「サーッ」が似合いますよね。

高崎 結果、「サーッ」が似合う生足ですね！

佃井 ちなみに生足は私服ですから。舞台衣装は、生足ではないです。

森田 佃井さんの生足はそう簡単には見せませんよ！（笑）

――バーナビー役の森田さんはいかがですか？

森田 僕は酷いですよ。

一同 （笑）

――ツイッターに上がっていた、女性陣に囲まれている写真が幸せそうで印象的でした。

森田 あれは良い匂いがしました……。ひとり違う女の子も交じってたけど。

林野 （ネイサンの声で）違うってどういうことよっ！

森田 女の子たちが写真を撮ろうとしてるから、「じゃあ撮ってあげるよ」って言ってたら「森田さんも入ってください」って。

岡本 そうそう。森田さんが撮ってくれたんですよ。

永徳 それは自分も一緒に写りたいという……策士ですよね。

一同 （笑）

林野 すごく面倒見がいい方ですよね。

横山 そして飲み番長。

永徳 森田さんは主役のひとりだし、アニメでもバーナビーを演じてらして、僕たちからしたら「本物の人が来た！」という感じなのに、気さくに声をかけてくれるし、僕らだけじゃなくアンサンブルの子たちにも声をかけてくれて、素晴らしい人です。

――では、虎徹役の平田さんは？

平田 （すごい目力で周囲を見る）

一同 （笑）

林野 目力がすごいんですよね。いつもこの目力なんですけど、ときどきよくわからないボケが来るんです。顔合わせの挨拶のときから、冗談っぽいことを言って和ませてくれて……。和ませる笑いを持つのと、目力でグッと引き締めるのと、両方を持っているんですよね。でも、まだわからないです。目に力が入ってて「今、平田さんキテるな」と思ったら、変なこと言ったり……。

平田 目に力が入ってるのは、たぶん老眼が進んだから。

林野 ほら、こういう感じなんです！（笑）あと森田さんがボケると平田さんもボケ返したり、2人でいきなり「良い声合戦」を始めたり。アンサンブルの子たちの会話を拾って、良い声で真似したりするんですよ。

横山 共演してると、違う楽しみ方ができるよね。

永徳 平田さんからは作品愛を感じます。もちろん僕らも自分の役や「TIGER & BUNNY」という作品を愛していますが、次元が違う。それを僕らに降ろして、愛を教えてくれるのがいいなと思います。

森田 平田さんはお仕事の兼ね合いで、一緒に稽古した回数はまだ少ないんですよね。アニメで一緒にやらせてもらっているので、マイク前での立ち振る舞いは知っていますが、舞台ではどうなるのか、これから見せていただけると思うので楽しみです。

――稽古場で一緒になった回数が少なくても、みなさんの平田さんへの尊敬と信頼が伝わってきますね。

平田 たぶん数回しか会ってないからですね。

一同 （笑）

平田 このままバレずに終わりたいです。

森田 これから下降線をたどっていく、と……。

平田 何も言わずに睨んでいよう。

横山 やっぱ目力だ（笑）。

――カリーナ／ブルーローズ役の岡本さんは？

森田 僕と平田さんがラジオの打ち合わせをしていたときに、B.T.Bの曲がかかっていたんです。そうしたらスタッフさんが「これ岡本さんですよ」って言うので、「何言ってるの？」って。そしたら「岡本さんが新しく録音してるんです」と言われて……。違いが全然わからなかった。

横山 すごい！

森田 声も抑揚のつけ方も、寿美菜子さんの歌を完全コピーしているんです。ファンの気持ちを考えて、元の歌を大切にしてくれていることもすごいし、真似る技術もすごい。

平田 あれはすごかったね。……あの調子で俺の歌も歌ってくれればいいのに。

一同 （笑）

森田 はい、今、平田さんが下降線をたどり始めました（笑）。

――陰で努力をなさる方なんですね。

岡本 でも人前で歌うのが苦手なので、どうしようかと思っています……。

森田 初めから歌うしね！

横山 ピアノを弾くシーンもあるよね。子供の頃からやってたんでしょ？

高崎 マジで弾けますもんね！

岡本 （泣きそうな顔）

高崎 褒められてるのに、追い詰められてる（笑）。

森田 あと玲ちゃんはメロンパンだよね。

林野 そうそう、昨日、眠そうに腫れた顔をしてて「（ネイサンの声で）アンタ、メロンパンみたいな顔してるじゃない、起きなさい！」って言

ネイサン・シーモア／ファイヤーエンブレム役
林野健志

×

ホァン・パオリン／ドラゴンキッド役
佃井皆美

高崎翔太×横山一敏

オールヒーロー座談会

ったら、「私、朝、メロンパン食べてきたんです」って。

高崎 朝食べたものの顔になる。

永徳 そういうNEXT能力なんだね（笑）。

——アントニオ役の横山さんはいかがですか？

横山 （平田さんを真似て、すごい目力で周囲を見る）

一同 （笑）

永徳 横山さんは器がデカい。

高崎 怒ってるの見たことないですよね。

森田 いつも笑ってますもんね。

横山 それはみんなが面白いから。

林野 この公式ビジュアルブック用に横山さんと2人で撮影したとき、腕を組んだりしたんですけど、その腕が太いし逞しいし「あ、守られてる♥」って……。

横山 守りたくないよ！（笑）

永徳 見た目でわかってもらえると思うんですけど、受け止めてくれるんですよ。

林野 あと殺陣がカッコイイ！

佃井 うん、カッコイイです！

岡本 アンサンブルの子たちも「横山さんの殺陣は怖い」って言ってました。

森田 稽古なのにスリルがあって、殺陣が怖いんですよね。身体が大きいので、手の伸びや足の伸びもすごくて、殺陣が大きい。殺陣ってこうして大きく作らなきゃダメなんだな、と。そこに重さとスピードが乗ってるので、本当に「この人と戦いたくない」って思いました。

林野 なに実際に戦うこと考えてるの（笑）。

高崎 今回、アントニオさんとイワンでアクションをやらせてもらってるんですけど、僕ができる最大限の動きを一緒に考えてくださって、すごく良くしてもらってます。

——キース／スカイハイ役の永徳さんはいかがでしょうか。

林野 子供ですね。ヤンチャ。

横山 ヤンチャな甘えん坊さん。

森田 少年のままのような人ですね。でも年下の子たちの面倒も見ているし、殺陣も相手にわかりやすい手の出し方をしてくれるので、きっと相手役の人はすごくやりやすいと思います。力強く男らしい殺陣と、演技者としての優しい殺陣の、両方をできる方だな、と。……でも稽古中は結構ふざけてる！（笑）

永徳 安心して預けられるメンバーなので、そこはもう何やっても大丈夫だろう、と。

高崎 カッコイイし爽やかです。本当に面倒見が良くて、最後の最後まで付き合ってくれるんですよ。

林野 ヤンチャというか、まんまで生きてる感じがしますよね。

高崎 天然ですよね～。

永徳 お前が言うな！

一同 （笑）

林野 永徳さんは殺陣になった瞬間、目が変わりますね。相手との間合いをすごく上手く取っていて、それが綺麗に見える殺陣なんだろうな、と思いました。他のときはちゃらんぽらんですけど。

永徳 ひどいな（笑）。

平田 第一印象から変わらず、爽やかですよね。二次元と同じ顔してる。撮影のとき、「あんな爽やかな奴が実際にいるわけな……いた！」ってね。実際の永徳さんも爽やかなんですよ。僕の周りはあまり爽やかじゃないのばっかりだから（森田さんをチラッと見る）。

森田 （バーナビーの声で）誰ですか、爽やかじゃないのって？

一同 （笑）

——ファンのみなさんにメッセージをお願いします。では、まずは岡本さんから。

岡本 ファンのみなさんが「タイバニ」のことを大好きなのと同じくらい、自分もアニメが大好きですし、自分が演じるブルーローズとカリーナちゃんのファンです。それを自分のちょっとしたミスとか、気が抜けた瞬間とかで傷つけたくないと思うので、大切に、素敵なキャラになるように演じたいと思っています。見てくださった方に、それが伝わっていたら嬉しいです。

——それでは、次の方を指名してください。指名された方はファンの方へのメッセージとともに、指名してくれた相手の役柄としての魅力や、見所も一言お願いします。

岡本 じゃあ次は、横山さん！

横山 暑い中お客さんが劇場に来てくれて、映画館でも放映してくれるんですよね。一度にそんな大勢の人に見てもらえることは、過去にないですよ。失敗したら、それがそのまま映ってしまうという緊張感もありますが、僕自身は楽しみです。「タイバニ」が大好きな人たちが集まっているので、楽しく見てもらえればいいな、と思います。

——横山さんの考える、岡本さんのカリーナ／ブルーローズとしての魅力や見所は？

横山 ローズは可愛いし、衣裳もいいじゃないですか。また玲ちゃんに似合ってる。

岡本 ありがとうございます。

横山 前を向いても後ろを向いてもイイ感じだなぁと（ニヤニヤ）。

林野 （ネイサンの声で）ちょっとぉ！

森田 オヤジー！

横山 あとピアノと歌も見所です。ローズはとにかく可愛いらしいからね。次は翔太！

高崎 ライブなので、その場に存在し続ける限り、キャラクターの好きな部分を最大限に表現していきたいです。原作ものの場合、原作ファンの反応が一番気になるんです。ファンの方は細かいところまで見てくれると思うので、見切れキャラの本領を発揮して、みなさんに納得してもらえるようにがんばります。

そして、横山さんとはペアで活躍します。途中、ゆるいシーンやコミカルなシーンもあって、アクションやお芝居以外にも見所があるので、お楽しみに。次は永徳さん！

永徳 僕はスカイハイなので、言うことはひとつでしょうね。「ありがとう！ そして、ありがとう！」。ファンのみなさん、劇場に来てくださった方にも、映画館で見てくださった方にも感謝しています！ 期待に負けない、それ以上の何か……「THE LIVE」じゃないと見られない何かを伝えられたらいいな、と思います。この本を手に取ってくださった人にも感謝しています。ありがとう！ そして、ありがとう！

イワンの見所はですね、イケメンだし、良く動くんです。動き回っているので、よ～く見てやってください。今回は舞台の中でも映像を使うので、映像の中で繰り広げられるお芝居もあるし、みんなとの絡みの中でもイワンくんがどういうポジションにいるか……。これがまた、可愛く立ってるんですよ。守ってやりたいな、と……俺は思わないけどな！（笑）

高崎 どういうことですか？（笑）

永徳 女性ファンが見たら、可愛いなぁって思うような雰囲気で立っているので、そんなイワンくんを見てやってください。では、続いて平田さん！

平田 ご指名ありがとうございます。正直、アニメが始まったころはこんなことになるとは思ってなかったです。アニメが終わるころの人気のすごさ、イベントをやったときの熱狂ぶりを感じ、この作品がこんなに大きくなったのは喜ばしいことであり、感慨無量なんですけど……いやぁ、大変だねぇ……。

林野 なんですか、その田舎のおっ

平田広明×森田成一×岡本玲×永徳×林野健志×佃井皆美×

さんみたいな口調は！（笑）

平田　いやほんと大変だと思うよ。自分が演じたアニメのキャラ、一度できあがったキャラを、また自分で、しかも実写でやるというのがどういうことなのか。怖いですし、楽しみでもありますね。みなさんがどんな気持ちでこの本を手に取っているのか……。「あぁ～…（ガッカリ）」なんて思われてないといいけど（笑）。でも、貴重な体験をさせていただいているので、できる限り、精一杯のことをやりたいと思っています。舞台版をやることになって、いろんな人とこうして出会えたし、素晴らしい体験でした。みなさんにも「アニメがこんな風になるんだ、すげえな」と思ってもらえたら幸いです。

　で、永徳さんの魅力？　永徳さん……楽しそうですよね！

永徳　あはは！（笑）

平田　こっちは、「右出して、左出して、そこからジャンプ」とか言われて、いっぱいいっぱいになってるのに、そんな笑顔でいなくてもいいじゃないか、と。

永徳　スミマセン！

一同　（笑）

横山　コイツも悪気はないんですよ（笑）。

平田　いや、すごく楽しそうにアクションしてるのが印象的で、「ちくしょう、早くあれくらい楽しんでやれるようになりたいなぁ」と思います。あと、彼が出てくるとシーンが明るくなりますよね。だからできるだけ彼のそばにいて、照らしてもらおうと思います。永徳さんもキースも、爽やかでいいですよね。僕の周りには、あんな爽やかな奴はいないもんで……。（と、森田さんをチラッと見る）

森田　……。（目を逸らす）

平田　ええと、これからも永徳さんには明るさで引っ張っていってもらいたいです。

永徳　ありがとうございます！

平田　しゃべってないのは誰だ……（高崎さんに）もう1回行く？

高崎　いえ、大丈夫です！（笑）

平田　じゃあネイサンに。

林野　お話をいただいて役が決まったときに、夏の一大行事になってほしいと思ったんです。ファンの方が期待して来たら、それ以上に「すごい！」と思って、鳥肌が立ってバチッと目が開くようなものを持って帰ってもらいたい、と。だから、この本を買ってくださった方々にも、この座談会を読んで舞台の感動を思い出して、この本が本当に好きな1冊になってくれたら、と切に思います。

――では、平田さんが演じる虎徹についてお願いします。

平田　長くなるようなら手紙に書いて。

一同　（笑）

林野　アニメを見ていたので、平田さんと森田さんは本読みのときに「うわっ、本物だ！」と思ったし、動いている姿を見ても、やっぱりキャラクターに合ってるんですよ。稽古場でも「タイガーっぽい」と思うところがいっぱいあるから、僕が見所を語るまでもなく、お客さんもそのままスッと見ると思うので、言ってしまえば見所は「全部」。個人的な意見ですけど、ネイサンとしてはすごく絡みたい。そしてすごく「知りたい」と思うんです。平田さん自身も、タイガーを演じているときの平田さんも。タイガーの魅力が、この作品に僕が惹かれる要因なのかな、と思います。

平田　……水、飲むか？（照れつつテーブルにあった水のペットボトルを差し出す）

森田　それ、僕のです。

平田　あ、そう。

林野　（笑）では、続いて佃井さん。

佃井　原作もののキャラクターを演じさせていただくのは、ものすごくプレッシャーがあります。いろんな方の努力でここまで来ている作品なので、それを無駄にしたくないし、自分のできることは全力でやりたいです。みなさんに楽しんでいただけるように、また期待以上のものをお見せできるように、がんばります。

　そしてネイサンですよね。ネイサンは結構絡むシーンが多いんですけど、自然でいられるんです。もうすっかり馴染んで、たまに男言葉を遣われると「えっ⁉　あ、そうか……」って思うくらいで。

林野　近くに寄ったら、よく笑ってるんですよ。これは俺を笑ってるのか、ネイサンを笑ってるのか……。

佃井　いや、私たぶん何も考えてないんですけど……自然と笑っちゃう（笑）。

一同　（笑）

佃井　本当にすごいなぁと思って、「どうやって役作りしたんですか？」って気になります。これからもネイサンについて行こうと思います！

岡本　私もついて行きます！

横山　ついて行っちゃうの⁉（笑）

佃井　では、森田さん！

森田　この本は9月18日発売ということで、舞台が終わってから2週間くらい……各自、反省会をしている真っ最中だと思います。現時点では、まだすべてが出来上がってはいないので、結果はわかりませんが、稽古場で僕たちはたしかに新しい「TIGER & BUNNY」を作ろうと、日々挑戦しています。自分たちがどれだけ挑戦的に、原作であるアニメを凌駕する勢いで作り込んでいけるかが、これからの勝負になってくると思います。

　……で、佃井さんですけど、仕事に対しての姿勢が本当にひたむきなんです。常に明るくポジティブで、殺陣にしても、蹴りひとつにも「自分はアクションが好きだ」という気持ちが現れてるんですよ。とても可愛いし、元気だし。

佃井　（恥ずかしそうに、林野さんの後ろに隠れようとする）

林野　（ネイサンの声で）なに照れてるのよ！

一同　（笑）

森田　佃井さんの殺陣はすごく綺麗なんですよ。手も足もピンと伸びて大きく見えるし、それが円を描きながら動いていくところは、まるでダンスを見ているみたいなんです。佃井さんの動きには目を奪われるものがありますね。あとは笑顔！　口元に注目！

佃井　（照れながらニコッ！）

永徳　可愛いなぁ。

森田　あとで肉まん奢ってね！（笑）

――それでは岡本さん、森田さん演じるバーナビーの見所を。

岡本　年下の私が言うのもなんですけど、一番元気なんですよね、森田さんって。お稽古も一番楽しそう。演出補の神里さんもおっしゃってたんですけど、「袖にはけるときまで楽しそうだ」って（笑）。作品そのものを楽しんでいるのが、きっとお客さんにも伝わるんじゃないかと思います。見習いたいところです。

森田　舞台がすごく好きだし、劇空間の中にいるのもすごく好きで、そこにいいメンバーが揃っていると、楽しむ以外ないんですよね。自分で楽しもうと思ってるわけじゃなく、いるだけで楽しいんです。……でもバーナビー的には、そういう気持ちが漏れないよう、もっとクールにキメるように、気をつけたいと思います（笑）。

（8月上旬、稽古場にて）

Cast comment

キャストコメント

さいか・りょう●8月14日生まれ、福岡県出身。1997年「elite MODEL LOOK '97」ファイナリスト、2002年4月～2010年9月 宝塚歌劇団 雪組男役、2011年～モデルとして活動。主な出演作品は、宝塚時代：「プラハの春/LUCKY STAR!」、「ベルサイユのばら」、「エリザベート」、宝塚退団後：ニコニコミュージカル「カンタレラ2012 裏切りの毒薬」（クラウディア／ヴァノッツァ役）ほか。

アニエス・ジュベール役
彩夏涼

Question

❶ 今回演じる役柄の魅力や、演じる上でのポイントは?

まずは完璧な美貌。メイクやネイルの色でファッションにアクセントをつけたり、陰では努力をされているのではないでしょうか。内面では緻密かつ大胆な行動もさることながら、滲み出る「強さ」が最大の魅力だと思います。そこを表現できるように、気持ちからなりきろうと思います。

❷ アニエスと似ている部分、似ていない部分は?

外見的には、背の高さとウエストのくびれ（笑）。私にはない、高くてつんとした綺麗な鼻には憧れます！　内面的には違うところが多そうですね。判断が早いアニエスと、優柔不断な私。明らかに気が強いアニエスと、実は気が弱い私……。

❸ 本舞台の見所は?

アクション、歌、ダンス、映像、客席との一体感……全部です!!　JAEさんと共演するのは初めてなのですが、お稽古の初回から感動しました！　個人的に何度も駆け込んできて指令を出したり、映像と会話したり、目まぐるしいアニエスにも注目して頂けると嬉しいです！

❹ 以前、ツイッターで「TIGER & BUNNY」の話題をつぶやいていらっしゃいましたが、元々、本作がお好きだったのですか?

実は……オーディションを受けるにあたり、DVDを見たのが最初です。そこから一気にはまって、タイバニ関連の本やグッズを集め始めました。ナンジャタウンも楽しくて2回行きました。ほとんどのものを食べましたが、特に「クリームのマッドベアクレープ」と「虎徹餃子」が可愛かったです！　アトラクションやガラポン、もちろん〝虎の遊具〟にも乗りましたよ（笑）。一番くじではタオルが当たりました！　お稽古場で活躍しています！

ヒーローアカデミー教官役
大葉健二

Question

❶ TVアニメ「TIGER & BUNNY」の印象は?

第一印象として、ヒーローという職業に大変面白さを感じた！　家族や友人を巻き込んだ幅広いストーリーが盛り沢山作れると思います！

❷ 今回演じる「ヒーローアカデミー教官」はオリジナルキャラクターですが、どういう人物像をイメージしていますか?

「教官」の人物像は、シャレではなく……厳しさの中に「好感」の持てる人格を秘めた人間をテーマに考えています。

❸ 大葉さんが考える、「ヒーロー像」とはどんなものですか?

私が考えるヒーロー像は……自分に厳しく！　強さ・優しさ・面白さ・明るさ・清潔感の5つを常に忘れない人間!!

❹ 劇中で、ヒーローの大先輩として、教官として、虎徹とバーナビーを導くシーンが印象的です。このシーンに託したい思いとは?

自分自身の一生涯のテーマが「教育」なのですが……ひとりひとりの目指す方向に、自分の持っているもの全てを授けて！　ひとりひとりをその方向に導いてやること!!!　そのイメージを教官で演じられればと思います。

❺ 本舞台では、大葉さんにとって実際の後輩の方々も多く出演されていますが、彼らへの思いを教えてください。

仲間である後輩たちの日々の活躍は常に見ていますが……本舞台では役者としてライバルだと思っています！　仲間たちには、舞台でいっぱい輝いてほしいです。

おおば・けんじ●1955年2月5日生まれ、愛媛県出身。主な出演作品は、映画：「里見八犬伝」（犬飼現八役）、「キル・ビル Vol.1」（シロー役）、「スーパー戦隊199ヒーロー大決戦」（青梅大五郎役）、「海賊戦隊ゴーカイジャーVS宇宙刑事ギャバン THE MOVIE」（一条寺烈役・主演）、ＴＶ：「秘密戦隊ゴレンジャー」（アカレンジャー役）、「宇宙刑事ギャバン」（一条寺烈役・主演）ほか。

バベル役
藤原習作

Question

❶ 今回演じる役柄の魅力や、演じる上でのポイントは？

音楽プロデューサーとして、ある程度の成功を収めた彼が、なぜそこまで暴走を始めたのか？　どんな家庭環境に育ち、どんな少年時代を送ったのか？　もともとは音楽を愛していたはずなのに……。単なる気のふれた悪人ではない、ＮＥＸＴ能力を持ってしまったひとりの人間としてのバベルを少しでも感じていただければと思います。

❷ 本舞台の見所は？

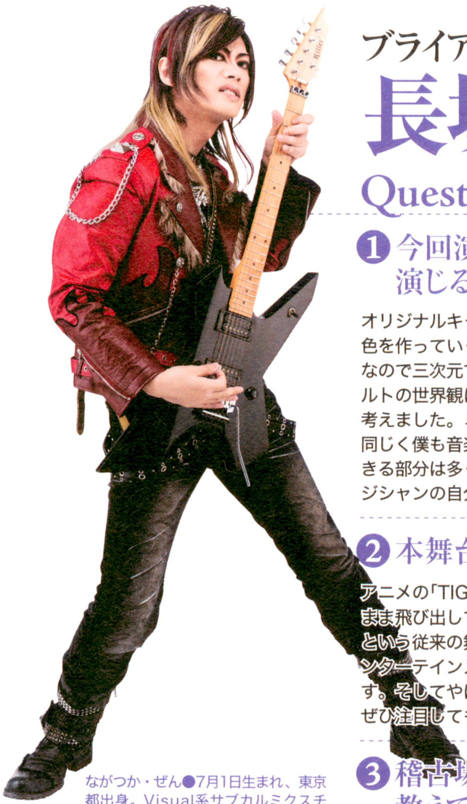
見所……？　多くのファンを持っている作品だからこそ、〝裏切れない〟という、スタッフ、キャスト全員の必死の思い！　脚本、演出、衣裳、メイクを含めて、妥協のないキャラクターたちが動きだし、言葉を発し、そして戦う。客席で観られないのが残念です（笑）。あとはタイガーとバーナビーが本物だからね、これは理屈抜きに感動します。

❸ 稽古場でのエピソードを教えてください。

「TIGER & BUNNY」の持っている雰囲気そのまま、すごく楽しい稽古場だったな……。アントニオ役の横山さんから、効率のいいHow to 筋トレを教えてもらったら、どんどん体脂肪が落ちていい身体になったぜ（笑）。

ふじわら・しゅうさく●1965年9月25日生まれ、福岡県出身。劇団め組所属。同劇団本公演全作品に出演する看板俳優のひとり。主な出演作品は、舞台：2011年９月秦組公演「Pain」、同年10月劇団たいしゅう小説家公演「新鮮な新撰組」、同年12月劇団たいしゅう小説家公演「ブービーズ」、2012年３月劇団め組公演「鬼界ヶ森」、同年7月劇団たいしゅう小説家公演「The Door」ほか。

ブライアン・ヴァイ役
長塚全



Question

❶ 今回演じる役柄の魅力や、演じる上でのポイントは？

オリジナルキャラなので性格、振る舞い、声色を作っていく楽しさと難しさがあり、舞台なので三次元ですが、アニメのシュテルンビルトの世界観にもしっかり存在できるものを考えました。ミュージシャンという部分では、同じく僕も音楽をしている人間なので共感できる部分は多く、その点はいつも通りミュージシャンの自分から出しております。

❷ 本舞台の見所は？

アニメの「TIGER & BUNNY」の世界がそのまま飛び出してきた、そして「THE LIVE」という従来の舞台とは一歩も二歩も違ったエンターテインメントが、すごい所だと思います。そしてやはりオリジナルキャラたちにも、ぜひ注目してもらえたらと思います。

❸ 稽古場でのエピソードを教えてください。

稽古場はキャストやスタッフの皆さまも含め、熱い方々が集まり、明るく、楽しく、ビシッとなるところはビシッと素敵です。アニメのタイバニと同じく、個性的なキャラが揃ってますね（笑）。シュテルンビルト市民ですよ、みんな。

ながつか・ぜん●7月1日生まれ、東京都出身。Visual系サブカルミクスチャーロックバンド「オトガデッド」のVocal。ミニアルバム「謝罪盤」ほかシングル2枚をリリース。GREE 携帯ゲーム「恋と仕事と君のプロデュース」キャラクターソング「Magic Score」小鳥遊善(cv.岡本信彦)、「Eternal Story」雨宮凌(cv.鈴村健一)の作詞を担当。主な出演作品は、舞台：ROCKミュージカル「ピンク スパイダー」ほか。

鏑木楓役
荻野可鈴

Question

❶ 今回演じる役柄の魅力は？

年相応ではないところと、でも年相応な面もあるところ！　生意気だったり素直だったり色々な表情が見られるところが、楓の魅力だと思います♥

❷ 本舞台の見所は？

会場に見に来て下さった方が「TIGER & BUNNY THE LIVE」を見に来た！という感覚ではなく、実際にタイバニの世界に来た、ヒーローたちがアニメから出てきたという感覚になれるところ。

❸ もし虎徹が本当に自分のお父さんだったら、どう思いますか？

多分、第三者の人間から見たらものすごく娘思いのいいお父さんだなーって思うと思いますが、自分の父だったら思われすぎてて、逆にうんざりしちゃうかもです（笑）。ありがたさに気づけるのは、20歳超えてからだろうなー……なんて思います。

❹ 楓はバーナビーに憧れていますが、荻野さんは「TIGER & BUNNY」のどのキャラクターが好きですか？

スカイハイさん！　あのキメキメな感じなのに、言ってることがちょっとおばかっぽいところが好きです（笑）。常にテンション高めのところも、敵と戦っているときの戦い方もなんかツボです♥

おぎの・かりん●1995年10月12日生まれ、山梨県出身。2008年「ピチレモン」オーディションでグランプリを受賞しモデルデビュー。「グラビアジャパン2010」でミスヤングジャンプを受賞し注目を集める。主な出演作品は、映画：「劇場版 仮面ライダーオーズ WONDERFUL 将軍と21のコアメダル」、TV：「非公認戦隊アキバレンジャー」（アキバイエロー／萌黄ゆめりあ役）ほか。

Cast comment
キャストコメント

Question
1 今回演じる役柄の魅力や、演じる上でのポイントは?
2 本舞台の見所は?
3 稽古場でのエピソードを教えてください。

マシュー役
高橋光

1 そうですね!! 基本、現場レポーターなので、現場の今現在の温度をTVを通じて熱く熱くお伝えするオリジナルキャラ・マシューを演じたいと思っています!!

2 やはり生のLive感です!! とりあえず、生!!

3 平田さんに、マシューとの絡みの部分のアドバイスを受けました。(それだけで嬉しいわ!!) 森田さんからAction部分の相談。(それも嬉しいわ!!) カンパニーの雰囲気はいいですよ～！

たかはし・ひかる●1971年7月16日生まれ、滋賀県出身。主な出演作品は、映画:「WILD7」、「さや侍」、「漫才ギャング」、「SPEC～天～」、TV:「プリマダム」(レギュラー)、大河ドラマ「篤姫」、「クロヒョウ2 龍が如く～阿修羅編～」、舞台:野田版「鼠小僧」、「戦国BASARA2」、「忍たま乱太郎」、舞台版「コードギアス 反逆のルルーシュ 騒乱前夜祭」ほか。

Mr.M役
濱田秀

1 作曲する、Recordingする、唄う、Guitarを弾く、Bassを弾く。

2 すべて!! 俺の好きな所は登場人物の生きざま。

3 楽しくてシビア。座長の平田さんの凛とした作品に対する姿勢が、目標になったり、参考になったりしています。

はまだ・すぐる●1967年8月17日生まれ、東京都出身。主な出演作品は、映画:「静かなるドン」(鬼斬一役)、TV:「炎神戦隊ゴーオンジャー」(悪徳店長役)、「華麗なる一族」(工夫役)、「二十九才の夏休み」(組織員役)、バラエティ「パパパパパフィー」ビジュアル系大運動会II、舞台:「サロメ」、「カムイノミ」、CM:DHC「なめらか編」、PV:パフィー「1999年」ほか。

カメラマン役
大石敦士

1 ヒーローたちにギリギリまで近づいて、死の危険すら顧みない戦場カメラマンとしての役割を全うし、会場にいる皆さんにいかに臨場感のあるLIVE映像を届けるか、それが自分の今回の使命だと思っています。

2 アニメの世界からそのまま飛び出てきたかのようなヒーローたち。特にヒーロースーツは必見です。遠くの客席の方にも見てもらえるように、カメラ大接近できるよう頑張ります。

3 縄田くん、佐藤くん、新田くんから教わった仲間を思いやる気持ちと筋トレが今も胸にヒビいています。

おおいし・あつし●1985年12月22日生まれ、静岡県出身。2004年北区つかこうへい劇団に12期生として入団後、つかこうへい作品を中心に舞台で活躍。主な出演作品は、TV:BS時代劇「テンペスト」、舞台:「熱海殺人事件―モンテカルロイリュージョン―」、「飛龍伝2010ラストプリンセス」、「広島に原爆を落とす日」、劇団EXILE「レッドクリフ―戦―」、「SAMURAI7」、PV:GReeeeN「オレンジ」ほか。

メアリー役
木下麗菜

1 メアリーを演じる上で気をつけたことは、アニエスの性格が熱くなりやすいので、部下として冷静さを忘れないように心掛けました。あとは「TIGER & BUNNY」の世界でスイッチャーの仕事はどんなものか、アニメをみて研究しました。舞台上ではアニエスさんと2人のシーンもあるので、注目してもらいたいです。

2 見所は、客席を巻き込んで話が展開していくところだと思います。いろんな仕掛けがあり、稽古中に驚くことばかりでした。その他にもワイヤーアクションや、ヒーローが戦うシーンはアニメに負けない豪華さです！

3 稽古場はいつも笑顔が絶えない明るい現場です。休憩中はみんなでそれぞれの役柄や衣裳について話したりして、「TIGER & BUNNY」の知識を日々増やしています！

きのした・れいな●1991年1月19日生まれ、東京都出身。主な出演作品は、TV:「もっと熱いぞ！猫ヶ谷!!」(飯子役)、「女子待機中」(アシスタント)、「エゴイスト」(レポーター役)、「マジすか学園2」、「ショップチャンネル」モデル、舞台:手塚治虫作品集「安達が原」(アンニー役)、「Say Hallo」(上原葵役)、「開演三十分前」(車田まさみ役・主演)ほか。

カメラクルー役
縄田雄哉

1 アシスタントとしていかにカメラに映らず、周りを回せるかが僕の仕事なので、誰よりも周りを見て、どんな事に対しても、瞬時に反応できるように心掛けています。あとは、小道具をいかにプロっぽく使えるか、研究しています。

2 やはり「生」って事に尽きると思います。2Dで見ていたキャラクターが目の前で動き回り、呼吸を肌で感じる事が出来るのは、舞台ならではの魅力だと思います。あとは、やはりアクションでしょう!! 皆さんめっちゃかっこいい!! 僕も影人形としても出演しているので、全力でHEROに立ち向かっていきます!! (笑)

3 稽古場の雰囲気は、僕は大好きです。平田さん、森田さんを中心に、キャラクターひとりひとりについて詳しくアドバイスされているのを見て、キャラクターが立体的になり、人間らしさが増した事が印象的でした。あと、岡本玲ちゃんのサプライズバースデーで、本気で驚かせて、本気でびっくりしてくれて、めちゃ楽しかったです♪

なわた・ゆうや●1982年9月17日生まれ、福岡県出身。主な出演作品は、映画:「亡国のイージス」、「BRAVE HEARTS海猿」、「天地明察」、TV:BS時代劇「塚原卜伝」、「戦国★男士」、「特命係長只野仁ファイナル」、舞台: 琉球ロマネスク「テンペスト」、「Endless SHOCK」、イベント:ジャパンアニメライブ(海外公演)、ドラマティック・ライブステージ「IRIS」ほか。

エグゼクティブプロデューサー／アクティングクリエイター

金田治（ジャパンアクションエンタープライズ）

Question

❶ TVアニメ「TIGER & BUNNY」の第一印象は？

僕の好きなタイプの作風だと思いましたね。アメコミ風の雰囲気も好きですし、ドラマとしてもしっかり人間が描かれていて、大人も充分楽しめる作品だと思いました。職業が「ヒーロー」という設定が気に入りました。

❷ アニメ作品を原作とするライブアクションを制作するにあたって、留意された部分があればお聞かせください。

原作の世界観を壊さないように気をつけました。その一方で、ファンの皆様の期待を飛び越えるような、〝生〟ならではのアクションの演出をつくりだせたのではないかと思います。各キャラクターの特徴をいかしたアクション演出も新たにライブ用に作り上げる事ができたのではないかと思います。

❸ 舞台（ライブ）で見せるアクションと、映像で見せるアクションの両方を演出される監督として、両者の大きな違いはどういう部分でしょうか？

一番の大きな違いは、ライブではNGでやり直しができない、という事です。そして見せ方の違いの一つは、カメラサイズを意識した演出と、客席後方まで届く演出という事です。基本的な意識として、臨場感を感じてもらうアクションの演出という点は、舞台・映像で変わるものではありません。

❹ 特撮ヒーローはもちろん、現代劇、時代劇とさまざまなジャンルのアクションをプロデュースしてこられた金田さんが思い描いている、「新しいヒーローアクション」とは？

「ヒーロー」もやはり人間です。できるだけ〝生〟の動きで表現させたいですね!!

エグゼクティブプロデューサー

尾崎雅之（サンライズ）

Question

❶ どういった経緯で本作の舞台化が決まったのでしょうか？　また、舞台化することへの不安はありませんでしたか？

2011年の初夏、アニメ放送中のかなり早いタイミングでＪＡＥさんからご提案を受けました。元々「作品がヒットしたあかつきにはいずれ舞台化を」という想いはあったものの、正直、時期尚早かなという気持ちの方が先に立ちましたね。とにかく不安だらけでした。企画を立ち上げる際も、進めている最中も。「原作アニメのイメージを崩しやしないか」「クオリティは担保できるのか」「ファンやアニメスタッフを裏切らないか」等々……。

❷ 舞台化にあたり、特に力を入れたのはどんな部分ですか？

先ほどの回答の裏返しですが、原作の世界観を守りつつ、エンタメ性を追求し、ひとりでも多くの方が納得するものを提供する、ということを心に刻み込みました。キャスティングと脚本には特にこだわりましたね。ただ、餅は餅屋ですから、アクションやヒーロースーツ制作等についてはＪＡＥさんを信頼して進めました。更に、舞台には生ものとしての良さがありますので、稽古が始まってからは現場でのアイディアを最優先しました。

❸ キャスティングに込めた思いとは？

〝キャスティング〟は二次元を三次元化する際の最重要ファクターの一つだと思います。とにかく「再現性の高さ」と「リアリティ」を高い次元でバランスさせることを目指しました。やるからには沢山の方に観て頂きたいし化学反応も起こしたかったので、役者さんの出身ジャンルの多様性にはかなりこだわりました。相当な時間と労力を費やした甲斐があって、非常に納得のいくキャスティングが出来たと思います。

❹ ファンの皆さんに向け、メッセージをお願いします。

皆さまシュテルンビルト市民の応援のお蔭で、ヒーロー達の活躍の場がどんどん増えていて、とても嬉しく思います。そのどれもが愛情をもった本当に多くのスタッフの手によって支えられております。そしてそこに愛がある限り、それぞれが紛れもない「TIGER & BUNNY」ワールドと言えると思います。これからも様々なかたちでHERO LIFEをご堪能頂ければ幸いです！

総合演出

森崎泰助（フォレストエンターテイメント）

Question

❶ TVアニメ「TIGER & BUNNY」の魅力は？

魅力は、ヒーローものだけど、大人にも楽しめる作り方をしているところです。物語の深みを作るために、ダークな部分が物語の中核に設定されていて、アニメとしては珍しいシリアスな展開となっていると思います。音楽はドラマのようなＢＧＭをうまく使っているところも面白い。

❷ 舞台化にあたり、特に力を入れたのはどんな部分ですか？

まず〝アニメの中から飛び出してきた〟ということをコンセプトに原作の世界観を表すのに苦労しました。ただの立ち回りだけでなく特殊能力の表現、アクションシーンの中でやりとりされるお芝居、8人のそれぞれの個性を生かしたシーンを演出することに、力を入れています。

❸ 本舞台で、「チャレンジしてみよう」と考えられた演出方法があればお聞かせください

今までのアニメ舞台化の概念を壊したいという思いを演出に込めました。特にモニターを使用した演出に力を入れています。舞台のスクリーンから出演者が舞台へ飛び出してきて、スクリーンの中の人と戦うという映像と現実との融合にチャレンジしました。一部のファン層だけでなく、子どもから大人までもが楽しめるエンタテイメント作品としての舞台づくりを心掛けました。

❹ 様々なジャンルの役者さんたちが集合しましたが、皆さんをまとめるご苦労はありましたか？

声優、アクション俳優、グラビアアイドルとそれぞれもっているスキルが違うので、それを作品の中に違和感なく盛り込むことが、難しかったです。しかし、それらを活かすことで作品のバラエティが広がったと思います。全出演者の頑張りと愛情で楽しい作品に仕上がりました。

脚本
毛利亘宏

Question

1「TIGER & BUNNY」というアニメ作品を、もともと見たことはありましたか？

ファンでした(笑)。最初にお話をいただいた時は夢じゃないかと思ったくらい喜びました。もともとヒーロー物が大好きで放送開始当時から毎週見ていました。入り口はヒーロースーツのデザインの虜になり、物語にうなり、キャラクターに魅了されたという感じです。浪花節の虎徹とクールなバーナビーの対比が絶妙で、どのキャラクターも人間くさくて感情移入のしやすさがすばらしいと思いました。とにかく実写展開をすれば海外に絶対もっていけると思いました。

2 アニメ原作を舞台化するにあたり、脚本を書かれる上で工夫したこと、大変だったことは？

今回の売りはなんと言ってもライブ感です。それを出すのに苦労しました。目の前にヒーロースーツを着た本物の虎徹とバーナビーが居る。ヒーロー達がいる。といった感覚を絶対に伝えたいと思いました。最終稿が近くなった最後の脚本ミーティングは、尾崎さんを中心としたサンライズの方々と一緒にぶっとおしで12時間やりました。気がつけば朝です。この作品を支えるプロデューサー陣の情熱に圧倒されました。良い作品には理由があるのだと思いました。

3 今回の舞台で、特にお気に入りのシーンなどがあれば教えてください。

全部です。と、言いたいです(笑)。ただ、大葉さん演じる教官と虎徹とバーナビーのシーンは個人的に必見だと思っています。新旧ヒーローの魂のふれあい。日本には今も昔もヒーローがいて僕らを守ってくれている。そんな風に感じられるシーンだと思っています。

演出補
神里盛仁

Question

1 演出補のお仕事について教えてください。

総合演出の森崎さんと今回の作品の世界観を共有して、芝居の枠組みを創らせていただきました。また、あまり舞台経験のない人たちを中心に演技指導もあたりました。舞台版とはいえ、アニメの世界観を壊さないようにと、時間のある限り作品を見続け研究しましたし、アニメや本だけで網羅できるか不安だったので、ネットサーフィンで情報収集したりもしました。もしかしたら、あなたのBlogが役に立ったのかも!?

2 TVアニメ「TIGER & BUNNY」の印象は？

〝ジャパニーズ・アメコミ〟が登場した！と思い、テロップで桂正和先生のお名前を見た時にはえも言われぬ説得力に、画面を見て何度も頷いてる自分がいました。サンライズは昔から大好きで、語れる作品が幾つもあります。だからこそ、これまでとは違った印象の「TIGER & BUNNY」に当初戸惑いもありました。それでも見続けたのはヒーロー達が人間として描かれ、親しみを覚えたから。もちろん今では夢に出るぐらい好きですよ。

3 本舞台の見所は？

「TIGER & BUNNY」の世界へ導く力、それが私たちのNEXT能力。これまで画面の中で起こっていることをただ見ていたことでしょう。舞台版では、近くにヒーローも現れるし敵も現れるし、「HERO TV」に出演なんてこともありえます。みなさまもシュテルンビルトの住民として体感していただければ、より一層楽しめるはず。また、世界を盛り上げるNEXT能力をみなさまがお持ちだということを知っています。

BLUE ROSE & WILD TIGER & Barnaby
B.T.B

TIGER & BUNNY THE LIVE

STAFF

エグゼクティブプロデューサー
金田治(JAE)
尾崎雅之(サンライズ)

プロデューサー
高木鉄也(JAE)
鈴木孝明
(バンダイナムコライブクリエイティブ)
深津修一(プリズム)
内藤卓也(ジュリアジャパン)

原作
サンライズ

総合演出
森崎泰助
(フォレストエンターテイメント)

演出補
神里盛仁

脚本
毛利亘宏

アクティングクリエイター
金田治(JAE)

舞台進行
Entertainment of All

音楽
池頼広

映像
プリズム

舞台美術
日本ステージ

音響・照明
共立

特殊効果
泰洋エンタープライズ

音効
大石こんた

CG製作
ジュリアジャパン

キャラクター造型
ブレンドマスター
be-Leaf

衣裳
チャコット

THE LIVE
オリジナルキャラクターデザイン
山田敏彦

ヘアメイクデザイン
アトリエレオパード

殺陣
JAE

スタントコーディネーター
高木英一(JAE)

キャスティング
JAE
キャスティングルーム

企画
サンライズ
バンダイナムコライブクリエイティブ
ジャパンアクションエンタープライズ

制作
ジャパンアクションエンタープライズ

制作協力
ゴーチブラザーズ
フォレストエンターテイメント

運営
バンダイナムコライブクリエイティブ

運営協力
ディスクガレージ

プロモーション協力
アサツーディ・ケイ

音楽協力
サンライズ音楽出版

主催
「TIGER & BUNNY
THE LIVE」製作委員会
ジャパンアクションエンタープライズ
バンダイナムコライブクリエイティブ
プリズム
ジュリアジャパン

監修
望月克己(サンライズ)
太田健介(サンライズ)
向猛(サンライズ)
吉田佳弘(サンライズ)

スーパーバイザー
田村一彦(サンライズ)

ヒーローデザイン・キャラクタースーツ
造型監修
桂正和

CAST

鏑木・T・虎徹 役
平田広明

バーナビー・ブルックス Jr. 役
森田成一

カリーナ・ライル／ブルーローズ 役
岡本玲

キース・グッドマン／スカイハイ 役
永徳

ネイサン・シーモア／
ファイヤーエンブレム 役
林野健志

イワン・カレリン 役
高崎翔太

ホァン・パオリン／ドラゴンキッド 役
佃井皆美

アントニオ・ロペス 役
横山一敏

ヒーローアカデミー教官 役
大葉健二

ワイルドタイガー(ヒーロー) 役
富永研司

バーナビー・ブルックス Jr.
(ヒーロー) 役
新田健太

アニエス・ジュベール 役
彩夏涼

鏑木楓 役
荻野可鈴

バベル 役
藤原習作

ブライアン・ヴァイ 役
長塚全

メアリー 役
木下麗菜

カメラマン 役
大石敦士

Mr.M 役
濱田秀

マシュー 役
高橋光

カメラクルー 役
縄田雄哉

アンサンブル
佐藤義夫
優光
小玉百夏
宮尾知里
田中美緒
渡辺愛那
野口沙里
井口尚哉
押川善文

ダンサー(映像のみ)
内海綾花
鍵山貴代
坂本由貴
三上夏実
山本瞳
森瑞希

マリオ 役(声のみ)
太田真一郎

斎藤 役(声のみ)
岩崎ひろし

2012.03.某日

出演者オーディション

@JAEファクトリー

緊張のオーディション会場

大ヒットTVアニメ「TIGER & BUNNY」の舞台化。その第一報とともに、オーディション雑誌でプロアマ不問の出演者オーディションが発表され、大きな話題を集めた。1000人以上もの応募の中から書類選考を勝ち抜いたメンバーが集まり、行われた面接実技。順番に、自己紹介、セリフ読み、特技の披露を行っていく。役柄によっては、パンチやキックなど何手もあるアクションのレクチャーをその場で受け、練習をした後、覚えた型をひとりずつ披露する時間も設けられ、会場は応募者たちの緊張感に満ちていた。

特技の披露は、それぞれの個性で勝負。ダンスやアクション、歌に楽器の演奏などで魅せる応募者たちのほか、実は多かったのがモノマネを披露する人。中には「ガンダム」のモノマネや、なんと「ベーグルパン」のモノマネをする人も。

2012.05.10

ヒーロースーツ監修会 @ブレンドマスター

ヒーロースーツ、完成直前!

ヒーロースーツ完成を目前にしたタイミングで、デザインを担当した桂正和氏、総合演出の森崎泰助氏、エグゼクティブプロデューサーの尾崎雅之氏、スーパーバイザーの田村一彦氏など主要スタッフが集まり、チェック（＝監修作業）とフィッティングが行われた。

そもそも、ヒーロースーツそのものは2011年に行われた「HERO AWARDS 2011」用にワイルドタイガーとバーナビーのスーツが作られていたが、そちらは電飾が施された、いわば見た目重視のもの。舞台上では、これ以上の動きやすさや耐久性が求められたため、一新されることになったのだ。

塗装も完璧ではない完成間際のスーツとはいえ、着用した姿に場が盛り上がる。さらに各パーツの大きさやバランス、それらが動きに支障をきたさないかなど、それぞれプロの目線でチェック。この監修を受けた上でさらに細部を詰め、塗装が行われヒーロースーツは完成していった。

ブレンドマスター 原田堅司

動きやすくて格好いいスーツを目指しました

――ブレンドマスターさんは、今まで「平成仮面ライダーシリーズ」や映画「GANTZ」など、多くの作品でキャラクタースーツの制作に携わってきたかと思いますが、今回のようにアニメのキャラクターを実際のスーツにするのはいかがでしたか？

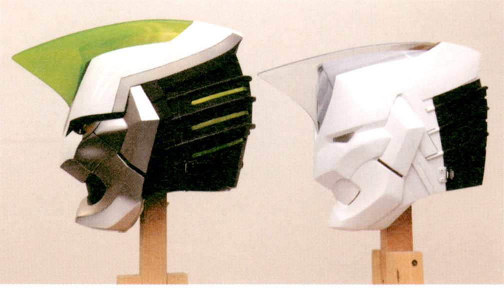
注目していたアニメだったので、イベント用に電飾入りスーツを作ることが決まったときはワクワクしていました。でもアニメの中では等身のバランスがいいので、それを日本人が着るためのバランスにしていくのは苦労しました。電飾入りのスーツのときはバランスを再現するために10数センチの下駄を履かせていたので、本来なら派手な動きが出来ないのですが、こちらの想像以上のアクションをされていたのが予想外でした。でもそれは演じている富永さん、新田さんのおかげだったと思います。

――舞台化にあたってスーツを新たに造られたわけですが、特に気をつけたポイントはありましたか？

アクションをメインで見せたいということでしたので、いかに動きやすく、格好いいバランスにすることです。その上で視界を確保したり、着脱がしやすいよう改善しました。これは特撮番組など、今までの現場で培ったノウハウを、舞台での使いやすさや呼吸のしやすさなどに活かしています。その上で修正したのはマスクの大きさです。最初に作ったスーツは電飾の都合で頭が少し大きかったんです。ですから、まずはそこを小さく見えるよう気を使いました。以前のように下駄も使えないので難しかったです。また顎も小さくしていて、そのままでは中の人の顎が見えてしまうのですが、黒くすることで見えないように工夫しています。それと電飾はありませんが、各部に蛍光っぽい塗装を施しているので舞台上のライティングで光ってるように見えると思います。この作品は新しい形の作品だと思いますし、皆さんに支えられて舞台にまでなりました。これが成功して発展していけば嬉しいですし、またそこに携われるなら、なお嬉しいですね。

WILD TIGER
ワイルドタイガー

張り出した両肩のパーツで、力強さも感じられるワイルドタイガーのスーツ。マスクはイベント時のものから、さらに小型化されており、ボディとのバランスがアニメに近づいている。またスーツの装甲部は柔らかい素材が使用されており、くにゃっと柔軟に曲がる。激しいアクションの妨げにならないよう、細部まで計算された作りになっている。マスクの目の周りはよく見るとメッシュが貼られており、中からの視界を大きく確保しているのもポイント。



BARNABY BROOKS Jr.
バーナビー・ブルックス Jr.

タイガーとは対照的に、丸みを帯びた肩のラインでスマートさが感じられるバーナビーのヒーロースーツ。試着したJAE縄田氏が森崎氏の指示で、ハイキックなどの足技を何度も繰り出していたのが印象的。といってもこれは単なる動きのチェックではなく、バーナビーが足技中心のアクションになることを想定しているため。バーナビーもタイガーと同様、マスクが小型化され、さらにマスクの目の周りをメッシュ加工することで視界を広げている。

ヒーローデザイン・キャラクタースーツ造型監修
桂正和

無理があった部分も上手く処理されています

——完成間近のヒーロースーツをご覧になった感想は？
もともとアニメーション用のデザインで、ＣＧで作ることを前提としていたので人が入ることを意識していませんでした。以前の（イベント用の光る）スーツのときは、ここまで光らせるのか！と驚かされましたが、頭が大きく見えたので、今回の舞台用のスーツはできるだけバランスをよくしたいなぁと。なかなか難しいんですけど、かなり頑張ってもらってますね。僕に時間があれば今回の舞台用にデザインをし直したかったんですけど、表現に無理があった部分も上手く処理されていると思います。
——具体的にどのようなオーダーを出されたんでしょうか？
（監修は今日だけでなく）ある程度かたちが出来上がった段階ごとに見せていただいています。マスクも粘土原型の段階から見ていましたが、デザインとの歪みをどう埋めていくのかが難しかったです。特にワイルドタイガーは独特の立体になっていて、僕にしかわからないんです（笑）。ＣＧでも難しかったのですが、このスーツは僕のイメージに近いものになっていますね。スカイハイは想像したとおりで、ギャップはありませんでした。マスクの大きさが気になりましたが、限界はありますし、何より舞台で動けるようにしないといけないですからね。コートも含め、全身硬めの素材をイメージしていましたが、舞台用にここもアレンジされていますね。
——ところで先生は、以前「ウイングマン」（集英社）の単行本で、自らウイングマンのコスプレを披露されていましたが、今回のスーツを着てみたいというお気持ちはありますか？
さすがにこの歳ですからありません。でもタイガーのヘルメットは飾っておきたいですね（笑）。こうしてスーツになるとは思っていなかったので、嬉しかったですし、舞台での活躍も早くみたいです。二次元のものが立体になるというギャップはお客さんにもあるかと思いますが、「THE LIVE」を楽しんでほしいです。

かつら・まさかず●漫画家。アニメ「TIGER & BUNNY」でキャラクター原案・ヒーローデザインを担当。本舞台のキャラクタースーツ造型監修も担当している。週刊ヤングジャンプにて「ZETMAN」を好評連載中（2012年９月現在）。

SKY HIGH
スカイハイ

今回の舞台のために初めて制作されたスカイハイのヒーロースーツ。背中のノズルなどのディテールも忠実に再現されている。額から伸びるツノのせいでマスクが大きく見えるが、これはある種の錯覚でマスク自体はコンパクトに作られている。また胸や肩にボリュームを付けることで元のデザインに近いものとしている。なお、この時点でワイヤーを使った「吊り」による飛翔シーンを想定し、スーツの構造などのチェックも行われていた。

フィッティング担当 縄田雄哉

各スタッフによる監修当日、富永氏、新田氏、永徳氏に代わってスーツの試着、動きのチェックを担当した縄田雄哉氏（カメラクルー役として出演）に感想を聞いた。

タイガーは見た目が重そうだったんですが、軽かったですね。バーナビーもスカイハイもすべて動きやすいですし、大きな問題はなかったです。実際に演じる皆さんは慣れている方々なので、稽古や公演中に馴染んでいくと思います。この舞台はＪＡＥとしても力を入れていますし、ファンの人気も大きい作品ですので、出演できるのは光栄です。舞台では、他ではできないようなアクションを目指したいと思います。

2012.07.12~16

映像撮影

@都内スタジオ

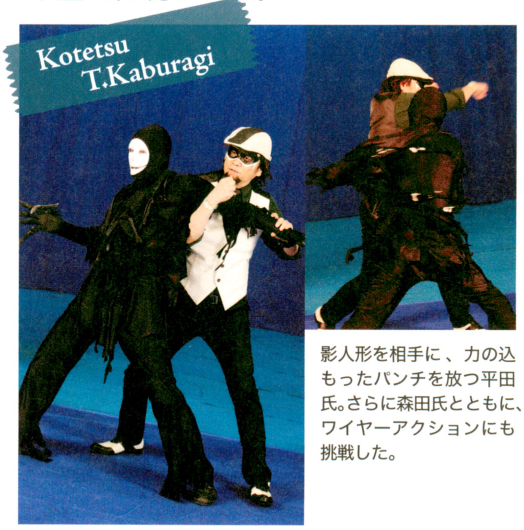
ワイヤーに吊られ、3人がかりで引き上げられるとともに、タイミングを合わせてアクションを決める。スーツの腕に取り付けられたワイヤーギミックで街を駆けるシーンも撮影された。

舞台を盛り立てる映像撮影

本舞台では、アクションはもちろん、映像と実写のシンクロが見所のひとつ。そこで稽古に先駆けて、ブルーバックのスタジオで撮影が行われた。今回撮影された映像はCG合成され、舞台本番のスクリーンに流される（なお、撮影はしたが実際には使用されなかった映像もある）。ヒーローたちが舞台上と映像の中を行き来し、よりダイナミックな演出も可能にする趣向だ。

富永氏、新田氏、永徳氏とも、次々とさも簡単そうにシーンを重ねていくが、やはりスーツを着用してのアクションはハード。マスクを脱ぐと、大量の汗が光っていた。

跳び箱の上からトランポリンに向かってジャンプし、飛び上がると空中でくるっと一回転。マットの四隅では、JAEのメンバーたちが事故のないように新田氏をサポートする。



影人形を相手に、力の込もったパンチを放つ平田氏。さらに森田氏とともに、ワイヤーアクションにも挑戦した。

宙を舞うスカイハイの臨場感を演出するため、マントに紐を付けて裾がより綺麗になびくよう工夫する場面も。

格闘技経験のある森田氏。総合演出の森崎氏やアクション指導の高橋氏らと打ち合わせをしつつ、華麗にアクションを決めていく。

［合成前］

［合成後］

撮影された横山氏の映像に、背景を合成したもの。さまざまに工夫された映像を舞台に投影することでより世界観に厚みが増し、舞台上だけではなく、さらには客席を巻き込んで、空間全体をシュテルンビルトの世界へといざなっていく。

プリズム 深津修一 「想い」を実現するために

――プリズムさんは本舞台で映像制作を担当されていますが、本舞台への参加はどのような流れで決まったのでしょうか？

総合演出の森崎さんとJAEの楢崎（敬士）さん（2012年２月ご逝去）から今回の話がきたとき、正直「TIGER & BUNNY」のことは全く知らず、「何それ？」というのが第一印象でしたが、その後、DVDを見せられてビックリしましたね。物語の設定といい、アメリカンコミックにも通じる絵のテイストといい、これまでの日本アニメの枠を超える作品だったからです。これイケるんじゃないかと直感しました。実は、JAEさんや森崎さんとは6年前からアクションとイリュージョンと映像を使った、日本発でシルクドゥソレイユを超える、世界に通用するステージショーを作ろう！を合言葉に諸々の実験を行ってきました。

ただ何といっても問題はコンテンツで、中々これという作品に出合えていませんでした。「TIGER & BUNNY」を観て、そんな夢をかなえられる可能性を感じたのです。直感的に、背景はすべてアニメのテイストを生かした映像空間にすべし、と提案したんですが、話すまでもなく森崎さんも同じ考えでしたね。

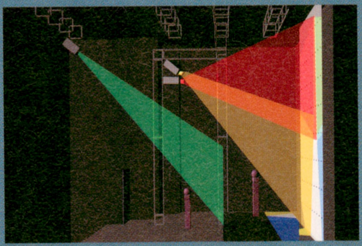
――本舞台はセットをほとんど組まず、映像でさまざまな表現をすると伺いました。どのように映像が使用されるのでしょうか？

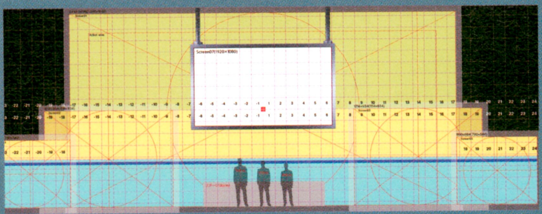
背景の多くは、実際にTVアニメで使用しているものをサンライズさんからご提供いただきましたが、舞台サイズに加工しなければならないので、基本、大半のシーンは作り直しています。

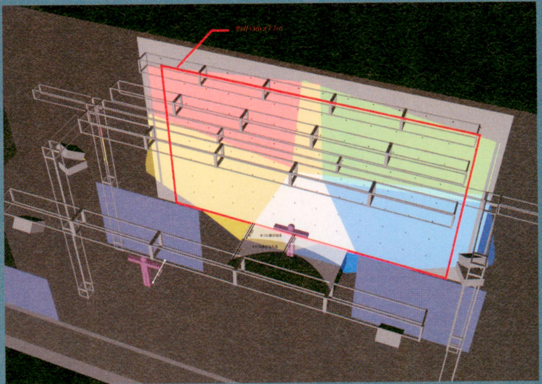
その他、演出的な表現としては、ヒーローの戦闘シーンで、悪人たちが映像から飛び出してくるように見せたり、ヒーローに投げ出された悪人が壁にぶつかって壁が壊れるシーンなど、よりショーアップした映像を随所に取り入れています。

――本舞台の映像を担当されるにあたり、ポイントとした部分はどんなことでしょう？

「役者に映像が被らないようにしたい」、「実物か映像かがわからないレベルのクオリティ」、「役者と映像を同期させるような合成もしたい」と、通常の舞台演出では考えられないような注文のオンパレードでした。森崎さんの要望を聞いているうちに、機材がZepp DiverCityの空間ではあり得ない物量になってしまったんです。このミッションを実現するためには、使用機材は業界最高クラスの機器を使用するしかなく、しかも演出上、必ず付いて回る本番直前までのコンテンツの修正に対応できる映像の取り込み機能と、リアルタイムな切り出し機能を持ったシステムが必要です。さらに画像の歪み調整も出来るシステムも必要になります。システムに関しては、「不可能を可能にする男」、オリハルコンテクノロジーズの高弊さんの力を借りることに決めました。プロジェクターなどの機器に関しては、予算は限られていますし、品質も含めて考えるとレンタル機材は使えません。そこで、メインの20,000lmDLPプロジェクターとLEDスクリーンをこの舞台の為に新たに購入しています。







使用機材

●舞台一番奥のホリゾント幕（W14m×H7m）

20,000lm（ルーメン）のパナソニック製DLPプロジェクター（以下すべてパナソニック製）を斜め横から左右各２台・計４台。さらにLIVE中継を行うため、それ用にもう１台10,000lmのDLPプロジェクターを10mの高さから吊り下げ。

●舞台センターの左右のパネル（W4.8m×H3.6m）

ホリゾント幕と同じ20,000lmDLPプロジェクター各1台。さらにピクチャーインピクチャー用のプロジェクターを吊り下げ。

●舞台手前の左右の紗幕（W3.0m×H2.5m）

客席左右の壁のキャットウォークから7,000lmDLPプロジェクター各2台。

●客席左右の壁（W7m×H3.5m）

同じく客席左右の壁キャットウォークから10,000lmDLPプロジェクターを各2台。LEDスクリーン（W2.0m×H5.6×２面）も使用。

投影面は４層構造になっており、ベストな位置から見るとパノラマワイド40m近い一面の映像に見えるように設定。「よりリアルで綺麗に明るく」を映像全体のコンセプトに、コンテンツの解像度は横がハイビジョンの約3倍、縦が約1.5倍となっている。

2012.07.05&07.09

パンフレット撮影

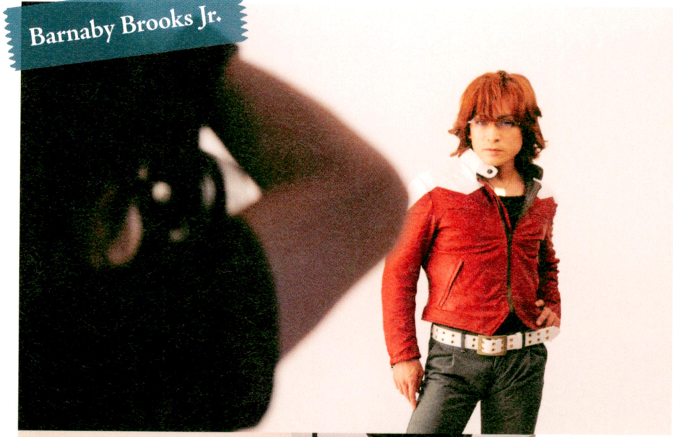
@都内スタジオ

キャラクターらしさを追求

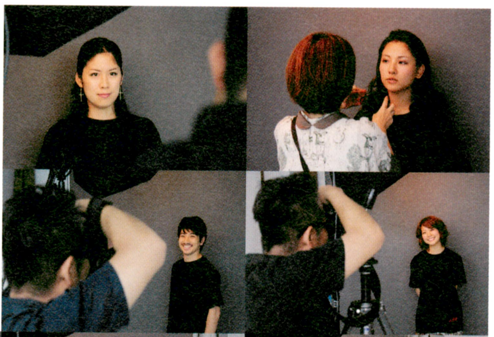
劇場で販売されるパンフレット用の撮影が行われた。キャラクターの設定画や版権イラストを参考に、よりそのキャラクターらしさを引き出せるように工夫しつつ撮影が進んでいく。

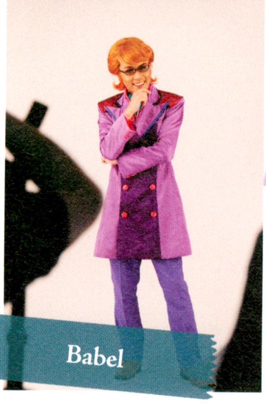
きちんと衣裳を着用し、ヘアメイクをしたのはこの日がはじめて。そのため、髭の長さなどの微調整が撮影現場で行われた。

Barnaby Brooks Jr.



Agnes Joubert

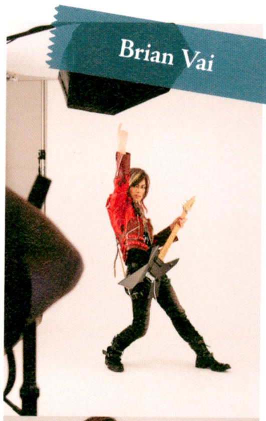




Babel

オリジナルキャラであるバベルとブライアン。個性の強いヘアメイクはもちろん、お互いの衣裳にも興味津々。劇中では袂を分かつ２人だが、本人同士は打ち解けている様子だ。

Brian Vai



今回の座組で最年少の女子高生・荻野氏。その可愛らしい笑顔と仕草に、現場の雰囲気も和む。

Kaede Kaburagi

Huang Pao-Lin

常に笑顔の佃井氏は、普段もドラゴンキッドのように元気はつらつ。アクションもお手のもので、要望に合わせて次々とポーズを決めていった。

DRAGON KID

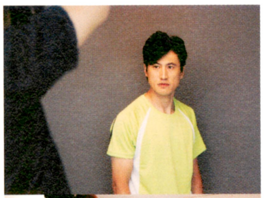
Nathan Seymour

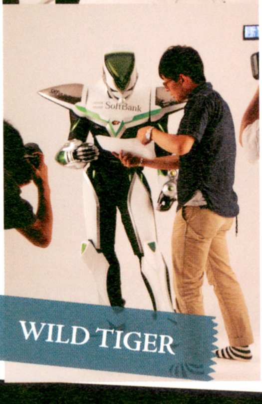
193 cmの身長に加えヒールも履いているため、見上げるほどの高さの林野氏。ネイサン、ファイヤーエンブレムともインパクト抜群で、スタッフからも大人気だった。

FIRE EMBLEM

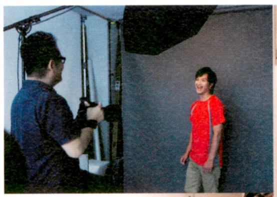
Karina Lyle

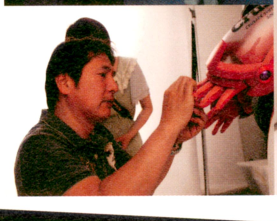
劇中でも歌にダンスにと活躍する「B.T.B」の3ショット。ワイルドタイガーとバーナビー2人を左右に従えて、ブルーローズの貫禄もばっちり。

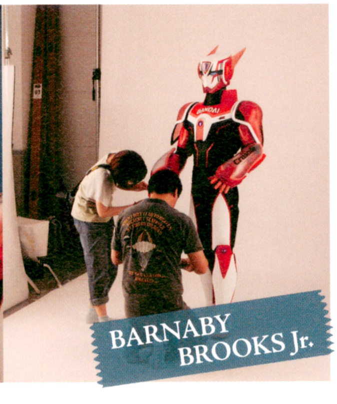




WILD TIGER







BARNABY BROOKS Jr.

BLUE ROSE

ブルーローズの衣裳で、「ペプシネックス」を飲むシーンも撮影。カリーナのときとはまたがらりと違った表情を披露した。

2012.07.24

全体顔合わせ

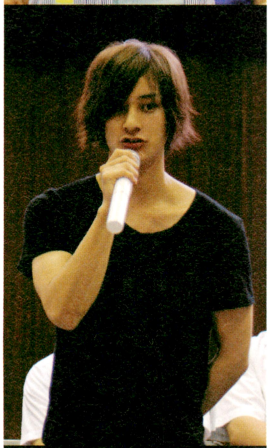
@都内稽古場

本番に向け、気持ちを新たに

今まで映像撮影や、パンフレット撮影、個別の稽古なども行われていたが、役者、スタッフ、関係各社の面々が一堂に会すのはこの日がはじめて（なお、岡本氏は別仕事のため欠席）。約80人ほどの大所帯で、「ここまでの人数が集まった顔合わせに参加したことはない」と話す役者も多かった。ひとりひとりがマイクを手に、挨拶とともに熱い意気込みを語った後、エグゼクティブプロデューサー・アクティングクリエイターの金田治氏と、総合演出の森崎氏から、それぞれ本舞台の概要についての説明が行われた。

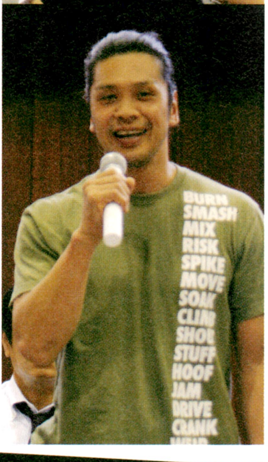
その後、役者たちによる本読みが行われ、平田氏と森田氏がそれぞれ台本を読み上げると、「本物だ！」と思わず感嘆の声をもらす人も。緊張感が漂う中にも、随所で笑いが絶えない顔合わせだった。

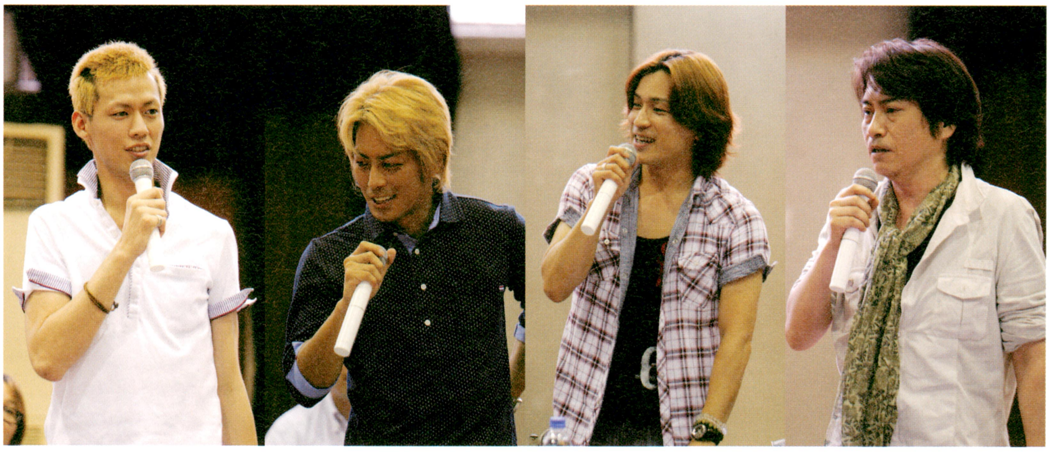
舞台の模型を使いつつ、演出プランを語る森崎氏。本舞台ではアクションや、芝居の稽古はもちろん、先日撮影した映像に合わせて動く練習も重要になってくるとの説明も行われた。



挨拶をする森崎氏（左）金田氏（中央）、尾崎氏（右）。尾崎氏は、昨日送られてきたという、TVアニメ「TIGER & BUNNY」の監督である、さとうけいいち氏からのユーモアに溢れた激励メールを紹介。

会場には、舞台本番で着用する衣裳も用意された。着用する個人の体型に合わせて作られた衣裳だが、これから舞台本番に向け、より芝居がしやすいように細かな改良が加えられていく。





2012.07某日

稽古 1

@JAEファクトリー

“スカイハイ”に学ぶアクション

この日は、まずは前説を担当する濱田氏と木下氏の稽古からスタート。Mr.M役の濱田氏は「スモウサンダー」、メアリー役の木下氏は「Ms.バイオレット」という２部リーグのヒーローに扮して前説を行う。

続いてキース／スカイハイ役の永徳氏が先生となってアクション稽古。ストレッチやマットを使った運動で徐々に身体をほぐしていく。なかなか前転が上手にできない人にも、永徳氏が丁寧に指導。この日は女性陣が多く、慣れない運動やアクションに対し、みんな楽しげに奮闘していた。

アクションについて学ぶ岡本氏。最初は戸惑いがちな表情だったが、永徳氏の指導の元、懸命にパンチを繰り出す。

前説の稽古中。必要な注意事項をただ伝えるだけでなく、観客のわくわくした気持ちを高められるような掛け合いを目指し、稽古を重ねる。

永徳氏よりアクションの基本が伝えられる。マットを使った運動では、前転のほか、寝転がって横に転がるなど、さまざまな動きで身体をほぐした。

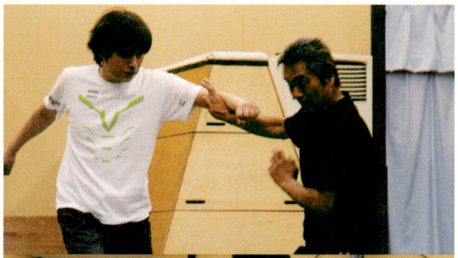
2012.07某日
稽古 2
@JAEファクトリー

アクション、ダンスに決めポーズ

この日は、大葉氏演じるヒーローアカデミー教官にヒーロー8人が「テスト」を受けるシーンの稽古。場面の本読みを行い、総合演出の森崎氏からの説明を聞いた後、まずは平田氏が投げられた際に受け身を取る稽古を行うことに。

さらに役柄の決めポーズや、虎徹とバーナビーのコンビアクションの練習などを行い、「TIGER & BUNNY」TVシリーズ1クール目のオープニング曲「オリオンをなぞる」に合わせたダンスの振り付けの稽古も。最後はみんなノリノリで踊り、笑顔と拍手で締めくくった。

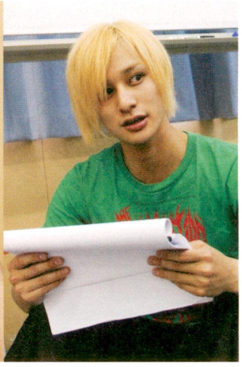
まずは一度、投げられてみることになった平田氏。大葉氏は平田氏を軽々と持ち上げ、ゆっくりと投げる。



大葉氏を相手に、アクションの稽古。この日はバーナビー（ヒーロー）役の新田氏が森田氏の代役を務め、虎徹とバーナビーのコンビネーションに磨きをかけた。

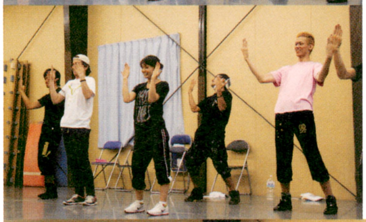
それぞれの役柄の決めポーズに試行錯誤。役柄のキャラクター性に合わせつつ、ヒーローらしいポーズを模索する。

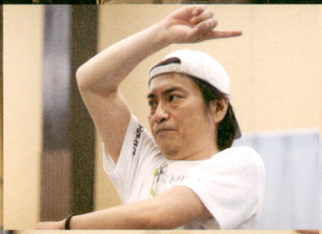
カーテンコールの際に踊るダンスの練習。お手本を見た後、先生の話に真剣に耳を傾ける面々。

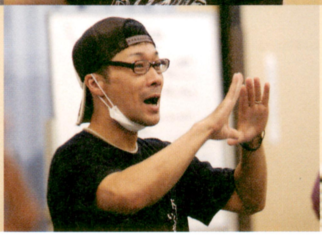


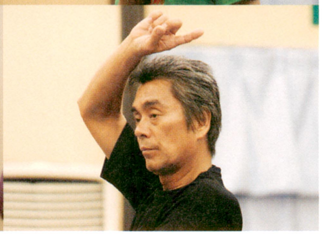
休憩はいつもとても和やかな雰囲気。セリフやアクションの再確認などをしつつも、笑い声が絶えない。

今回、行うダンスは「手話ダンス」。手話を使って「オリオンをなぞる」の楽曲の世界を表現していく。

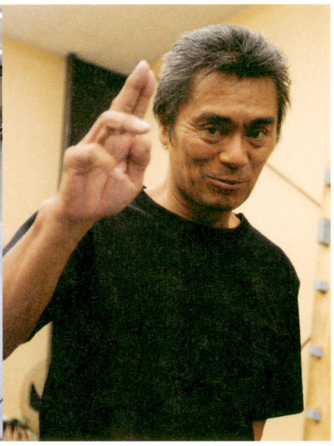








だんだんと手話ダンスのコツを掴み、リズムに乗せてポーズを決める。最後は拍手で終了。



Anytime

THE LIVEを支える人々

@Anywhere

プロデューサー
高木鉄也
（ジャパンアクションエンタープライズ）

今回の舞台「TIGER & BUNNY THE LIVE」は、キャストやアクションだけでなく企画・制作にもJAEが携わっている。高木氏はその制作部門を統括するプロデューサーだ。

「アクション、スタントの仕事を請け負って四十数年の歴史を持つJAC（ジャパンアクションクラブ。JAEの前身）が、イベントなどの制作もできないだろうかと、初めて社内にエンターテインメント事業部を立ち上げたのが長野オリンピックの年（1998年）です。人材の手配だけでなく、それまでも一緒に仕事をしていた音響・照明・特効（注：特殊効果＝火や水、煙あるいは映像などの舞台演出）の方々と共に、JACがライブエンターテインメントをプロデュースするというのが主な目的でした。僕は、かつて日光江戸村（大新東グループ）の宣伝部にいたのですが、JACがこの事業を始めるにあたって、社長の金田（治）からの誘いを受けた入社当時からの上司である楢崎敬士に後れること約2年、JACに入りました」

新規事業は、当初から「舞台公演のプロデュース」を視野に入れて準備が進められたという。

「とはいえ、オリジナルコンテンツがないという事情もあって、当初は例えば長野オリンピックの開会式のような、大きなイベントなどの演出の一部を担当するところから始めました。映像では東映さんの仮面ライダーシリーズやスーパー戦隊シリーズに深く関らせていただいているけれども、それはあくまでも東映さんのものです。自分たちの手でゼロからコンテンツを作り上げたいという思いを、金田や楢崎もずっと持ち続けて物事を進めてきたんです。その中で出てきたのが、ちょうどJACがJAEと社名を変更した2001年、ラスベガス公演を目標として企画された『忍伝～SHINOBI DEN～ツルギ』という作品です。忍者をモチーフにアクション、スタント、イリュージョンをミックスした舞台で、忍びの術をイリュージョンや視覚効果で表現しようというものでした。JAEプロデュースとして、福岡県北九州市のスペースワールドで2000年、2001年の夏に『TSURUGI』の内容と同じ忍者イリュージョンショーの公演を行ったほか、いくつかのケースを経て、今もラスベガス公演という野望が進行中なんです」

もちろん「TSURUGI」以外にも、本格的な舞台・アクションショーからファミリーで楽しめるアミューズメントショーまで、多くのライブショーが日本各地で上演され、高木氏も現場を取り仕切ってきた。

「僕なんかは最末端の下働きですけどね（笑）。でも、そういったお仕事の中で今回のベースとなるようなチームとの係わり合いも出来てきましたし、ノウハウや人材についても10年間である程度の蓄積ができました」

そんな中、思わぬところからJAEは「TIGER & BUNNY」とリンクする。

「〝舞台化に適したコンテンツ〟を考え続ける中で昨年『TIGER & BUNNY』が放送開始となったんです。放送開始直後から社内にも注目しているスタッフがいたこともあり、楢崎や僕も観てみたところ、〝これこそ、うちがやるべきコンテンツなんじゃないの?〟と感じました。楢崎はすぐにサンライズさんに相談をして、尾崎（雅之）エグゼクティブプロデューサーや望月（克己）さんに企画を持ち込んだんです。正式に決まったのは、2011年の秋口でした。ですから、11月13日に行われた『TIGER & BUNNY HERO AWARDS 2011』にサプライズで登場したワイルドタイガーとバーナビーのスーツは、舞台化が正式に決まる前にうちで作ったもので、完全な見切り発車です（笑）」

果たしてその結果は、会場を揺るがさんばかりの熱狂的な支持を勝ち取り、ファンの中で「あのスーツがアクションする姿をもっと観たい!」という声が高まった。

「おそらく、あの反響を見て〝このスーツでJAEがやるのなら、大丈夫だろう〟と思っていただけたのかな、と思います」

こうしてスタートを切った「TIGER & BUNNY THE LIVE」だったが、思いもよらなかった出来事が起こる。

「メインどころの予算管理など大きなくくりの部分は楢崎がやって、僕はアシスタントプロデューサーとして現場レベルの進行をやることになるんだろうな、と思っていたんです。そんな最中の2012年2月に、楢崎が突然、病気で他界してしまいました。そして、僕が現場のこ

とはもちろん、許諾・契約やキャスティング、出演者の皆さんの事務所との交渉ごとなども含めた制作業務全般を担当することになったんです。楢崎は僕が大学を卒業して江戸村に入った時の先輩で、20年以上の付き合いになるんですが、彼が〝これは面白い、これをやりたい、これをやったらすごいぜ!〟と言った企画は、実現しないというジンクスがあった。でも、この舞台はおかげさまでチケットも完売して、そのジンクスを打ち破った、彼にとって最初で最後の作品となりました」

現在は、稽古から来るべき本番へ向けての業務を急ピッチで進めている。

「ファンはもちろん、サンライズさんとしても期待の大きい作品だけに、乗り越える壁として最も高かったのはキャスティングでしたね。企画開始当初からいろんな候補が出て、またサンライズさんの希望などもあって、できる限りそれに応えたいと思いました。僕も選考やオーディションに参加して、いろんな意見を吸収しましたが、皆さんの意見を集約していった結果として、座長の平田広明さん、森田成一さんをはじめ、振り幅の大きい役者さんがそろったな、という印象です。稽古も、日が変われば別の演じ方をしてみたり、いろんな方向性を模索しているようで、多くの引き出しを持つ役者さんたちならではの楽しい舞台になると確信しました。キャラの再現度についても反応は上々で〝よし、やった!〟と思う反面、舞台上ではアドリブなどライブエンターテインメントゆえの〝何が起こるか上演されるまでわからない〟遊び心を忘れないようにしてほしいな、と思っています」

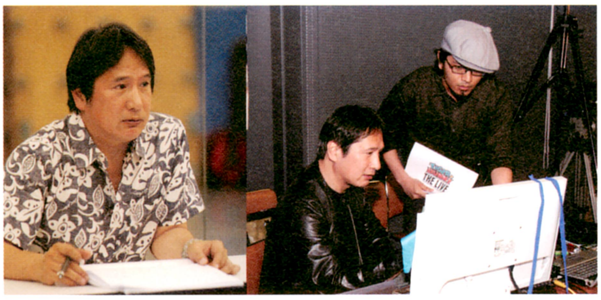
取材は本番直前ということで、「まだまだ油断は許されない。経験上むしろここからが大変」と語る高木氏。

「映像を担当するのはこれまでいくつかの舞台で同様の演出を手がけたプリズムさんですが、ライブと映像のリンクについては、やはり現場に入ってからでないと最終調整ができません。また、ライブだけにどんな不測の事態が起きるとも限らない。同じく特効など、安全面をはじめクリアしなければならない課題は山積みです。でも、終わらない撮影現場もなければ、幕が開かない舞台もない。いつかは必ず始まるものですから。それに向けて最大限の準備をするのがスタッフがやるべき仕事だと思います。そして、演じる皆さんが最高のパフォーマンスを見せることができるよう、僕たちは体力の限界と気働きの限界まで全力を尽くすことですね」

高木氏たちの仕事は、観客の目に触れないポジションから、エンターテインメントを成功に導くというものだ。

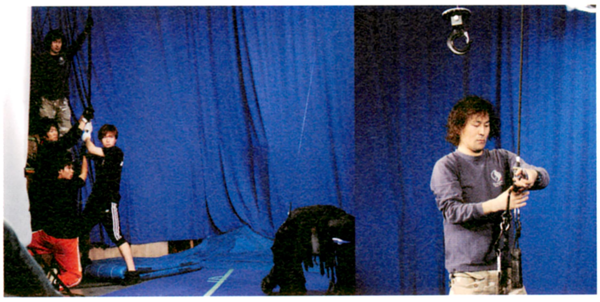
「お客さんに満足してもらいながら無事に終わることが一番なんです。そして、携わったみんなが幸せになれればなお良い。今後の課題は、この舞台が生で観られなかった方々に向けても、何かしらの形でお届けできる方法がないかを探ることです。また、これまで同様JAEならではのキラーコンテンツを生み出すことも考えていきたいですね」

たくさんの人々が裏方として働くことで、舞台は初めて幕を開くことができる。「THE LIVE」にも、当然、さまざまな立場、仕事内容の「裏方」が存在し、華やかな舞台の土台をしっかりと支えている。



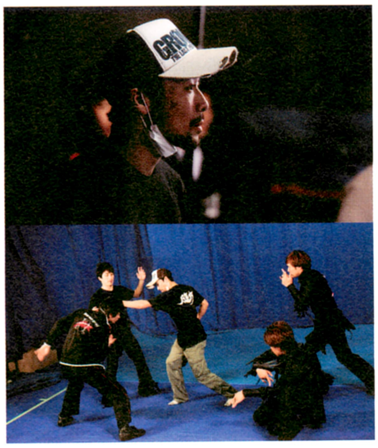
演出

総合演出の森崎氏と、演出補の神里氏。本舞台では、今まで見たことのないライブエンターテインメントの実現を目指し、新しい演出プランが数多く盛り込まれた。



スタントコーディネーター

担当したのは、高木英一氏。スタント全般を取りまとめた。セーフティスタッフとともに、本番中、ロープを引いたり、マットの用意をしたりと、役者陣を裏でサポート。



アクション指導

本舞台で殺陣をつけた高橋光氏（マシュー役）。アクション経験がない役者にも一からわかりやすく教え、導いた。なお今回、リハーサル中のアクシデントにより永徳氏が負傷し、本番でのアクションが困難となったため、急遽、スカイハイの代役を務めたのも高橋氏。

2012.XX.XX

サプライズバースデー

ちょうど誕生日を迎えた役者たちに、様々なサプライズバースデーが催された。平田氏、岡本氏のほかにも期間中に誕生日を迎えるメンバーが複数おり、その都度、温かな拍手で祝福し、現場の結束はより強まっていった。

この公式ビジュアルブックで、稽古前にオールヒーロー座談会を行ったまさにその日。取材が終わり、まずは音楽のチェックからということで、ブルーローズのライブシーンから稽古スタート。「GO NEXT!!」を歌い踊った岡本氏が、ピアノの前に座り、続いて「My song」を歌うのかと思いきや、長塚氏のギター、濱田氏のベースサウンドとともに、「Happy Birthday」のメロディーを奏でる。それに合わせてキャスト・スタッフ一同で歌をうたう。寛いだ様子で稽古を見守っていた平田氏は、突然のことに驚きつつも、満面の笑顔。みんなへ感謝の気持ちを伝えるとともに、49歳となった抱負を語った。

映像撮影が行われた日、アクションの指導があるからと、現場に残ることになった岡本氏。練習を行っていると、本舞台の本編に登場する影人形たちが突然現れ、岡本氏を取り囲む。何が起きたのかと息を飲む岡本氏に、みんなで「Happy Birthday」を歌い、総合演出の森崎氏がバースデーケーキを差し出す。そこでようやく事態を飲み込んだ岡本氏は、安堵するとともに、嬉しそうな笑顔に。

舞台美術

本舞台は、映像を投影することで様々なシーンを再現している。舞台美術に関して、総合演出の森崎氏からコメントをいただいた。

シュテルンビルトの街並み①：「TIGER & BUNNYの世界観で最も象徴的な街です」

シュテルンビルトの街並み②：「敵NEXTとの戦いは路地裏からやがて街の中心（街並み①）に移ってゆきます」

HERO TV：「HERO TV主催のブルーローズコンサートの基本画面です。中央のモニターではHERO TVニュースや会場のLIVE映像が映されます」

ブルーローズライブ「GO NEXT!!」：「ブルーローズの『クールビューティー』な感じをステージ背景に表現しました」

ブルーローズライブ「My song」：「バラードの歌の背景は星空。その星はやがて雪に変わってゆきます」

B.T.Bライブ「夏の恋はお疲れサマー」：「チャールストンのメロディーに合わせ、キュートでポップな背景を設定しました」

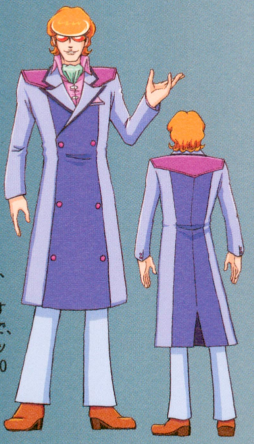
トレーニングセンター：「アニメに出てくる部屋に大窓と街の夜景をつけて世界観を表現しました」

倉庫街：「倉庫街では怒涛のラストアクションが展開されます」

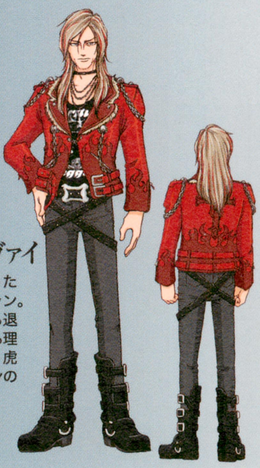
影人形：「影人形の登場ではホラー映画のような不気味さを表現しました」

TIGER & BUNNY THE LIVE
——Introduction

ここは、ブルーローズのライブ会場。観客たちの興奮が高まる中、ブルーローズが華麗に登場し、「GO NEXT!!」や「My song」などお馴染みのヒットナンバーを歌い上げていく。
実はこのライブの裏では、極秘の作戦が実行されていた。なぜか有名ミュージシャンばかりが狙われる事件が多発しており、次のターゲットになると予測されているミュージシャン「Mr.M」が、ブルーローズのライブ会場に来ているということで、この機会に犯人を捕まえようというのだ。
さらに、同会場には虎徹の娘・楓がたまたま遊びに来ていた。これから誘拐事件が起きるかもしれない場所に愛娘がいることに慌てる虎徹。そして、そんな虎徹には知らされていない、アニエスの秘密の作戦も同時進行中で……。
役者たちの熱の篭もった芝居、歌やダンスだけでなく、日本のアクション・スタントを牽引するJAEが作り出す迫力のアクション、最新鋭の映像技術など、珠玉のライブエンタテインメントが完成した。



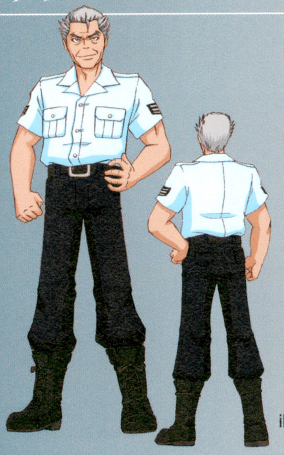
バベル
ブルーローズを狙う、音楽プロデューサー。自分がプロデュースするアーティストだけで、シュテルンビルトのヒットチャートトップ10を独占することが夢。



ブライアン・ヴァイ
10年前に姿を消した伝説のミュージシャン。彼が音楽シーンから退いたのには、とある理由があった。実は、虎徹も昔、ブライアンのファンだった。

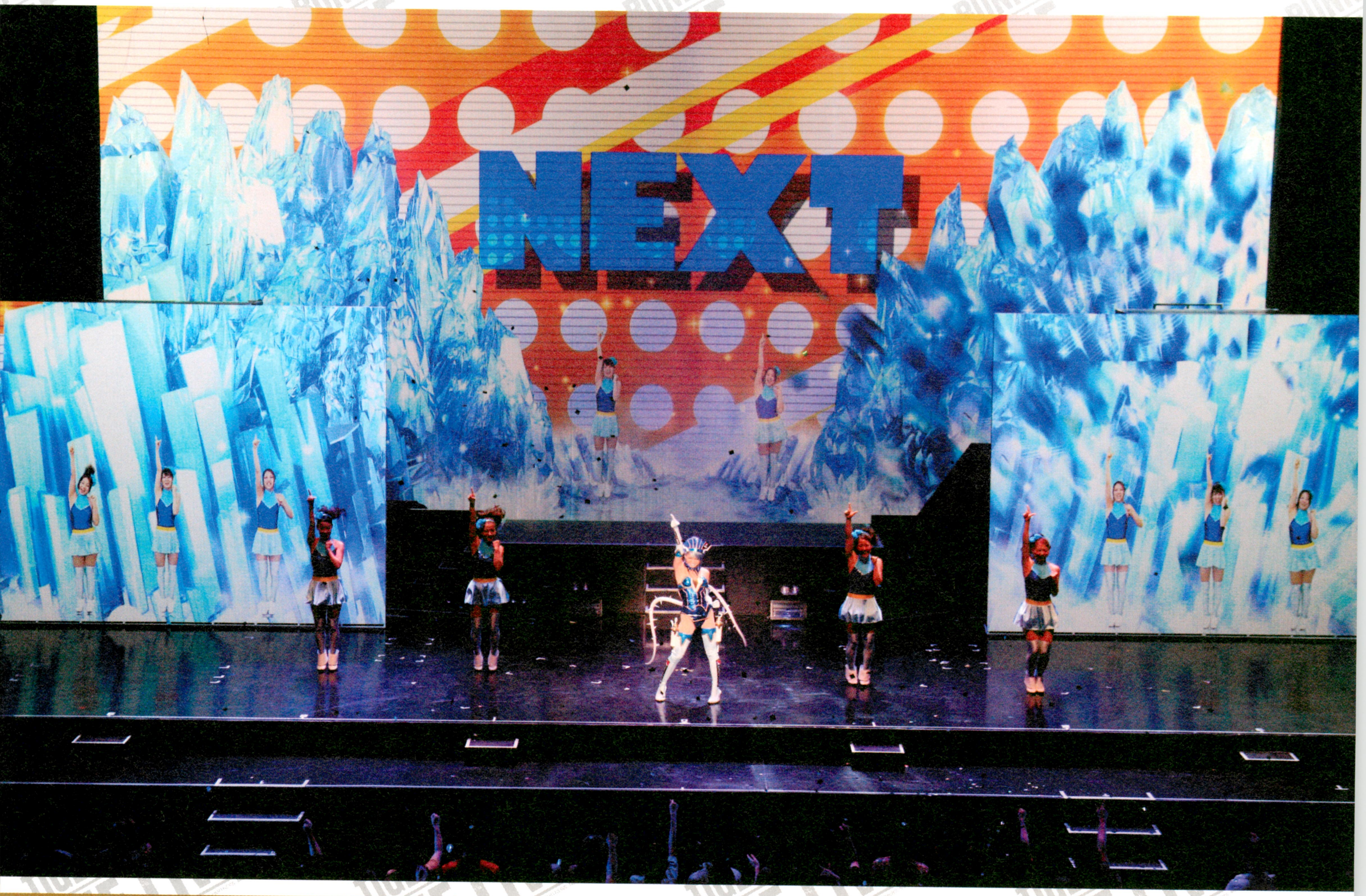
舞台オリジナルキャラクター

影人形
暗闇の中にうごめく、怪しい影人形。ワイルドタイガーやバーナビーたちヒーローが攻撃を仕掛けても、何度も起き上がって襲いかかってくる。



ヒーローアカデミー教官
元・ヒーローで現在はヒーローアカデミーの教官。スパルタ指導には定評があり、卒業生のバーナビーとイワンは未だに彼に頭が上がらない。

illustrated by 山田敏彦

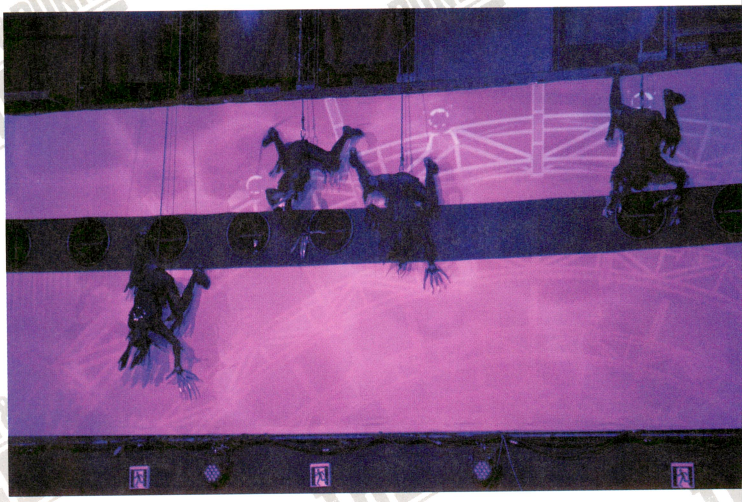


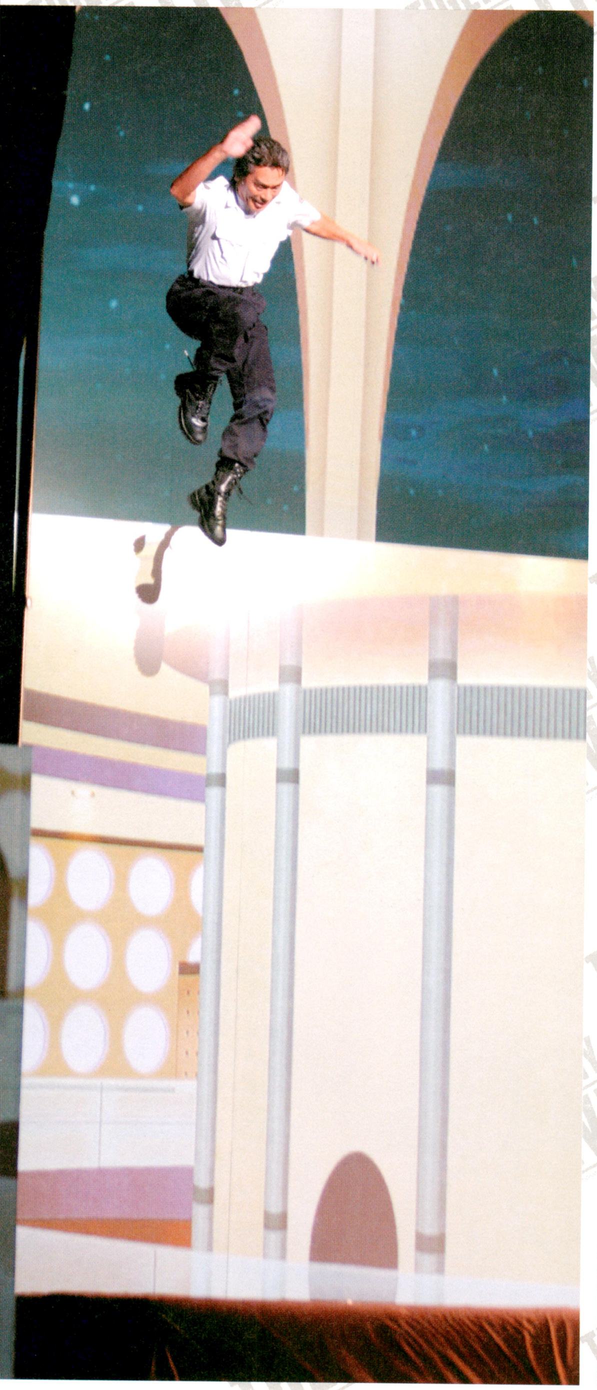
2012.08.23

ゲネプロにて撮影

TIGER & BUNNY THE LIVE

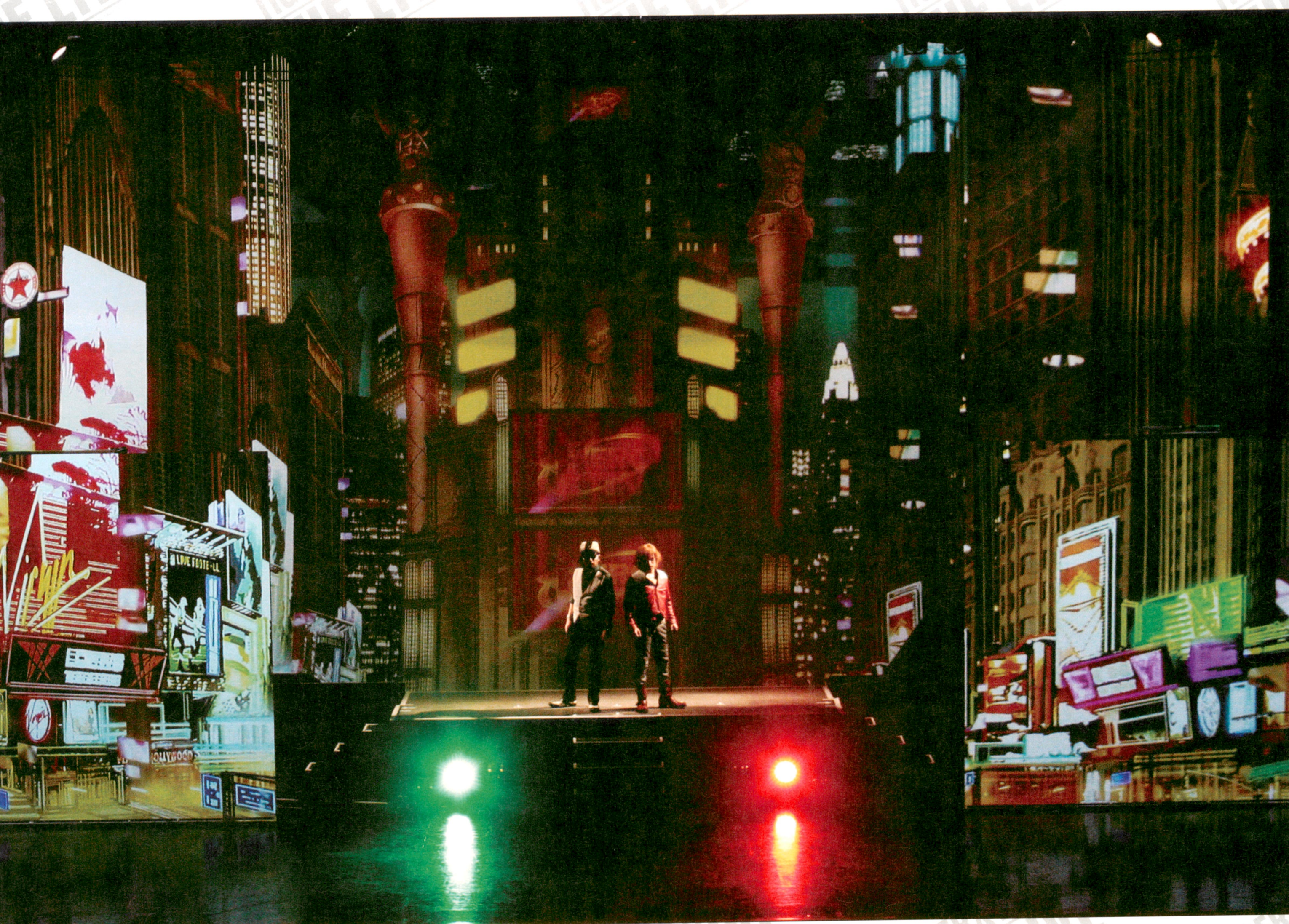
SoftBank

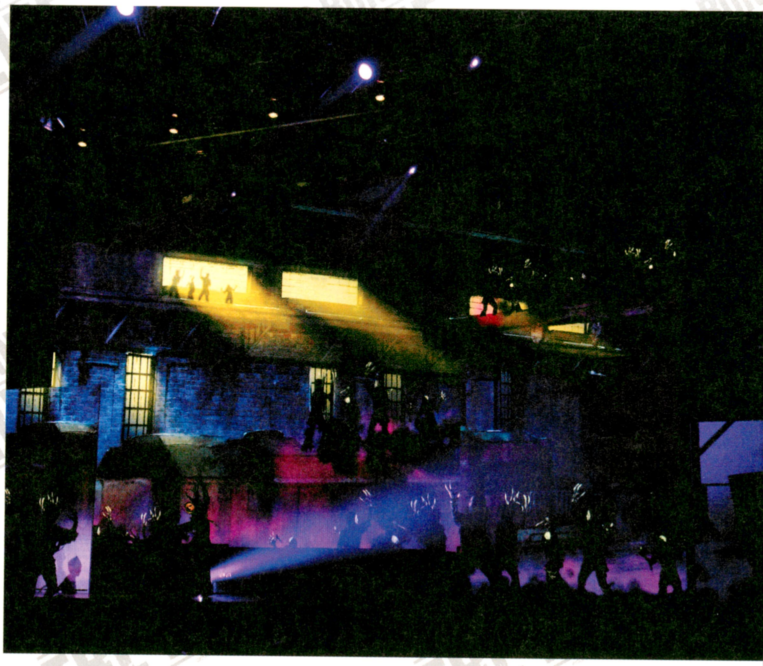


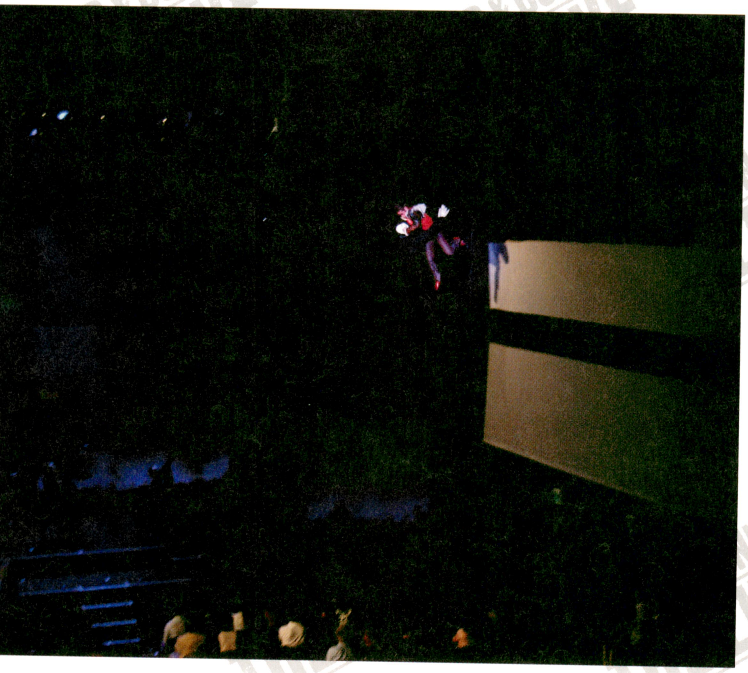


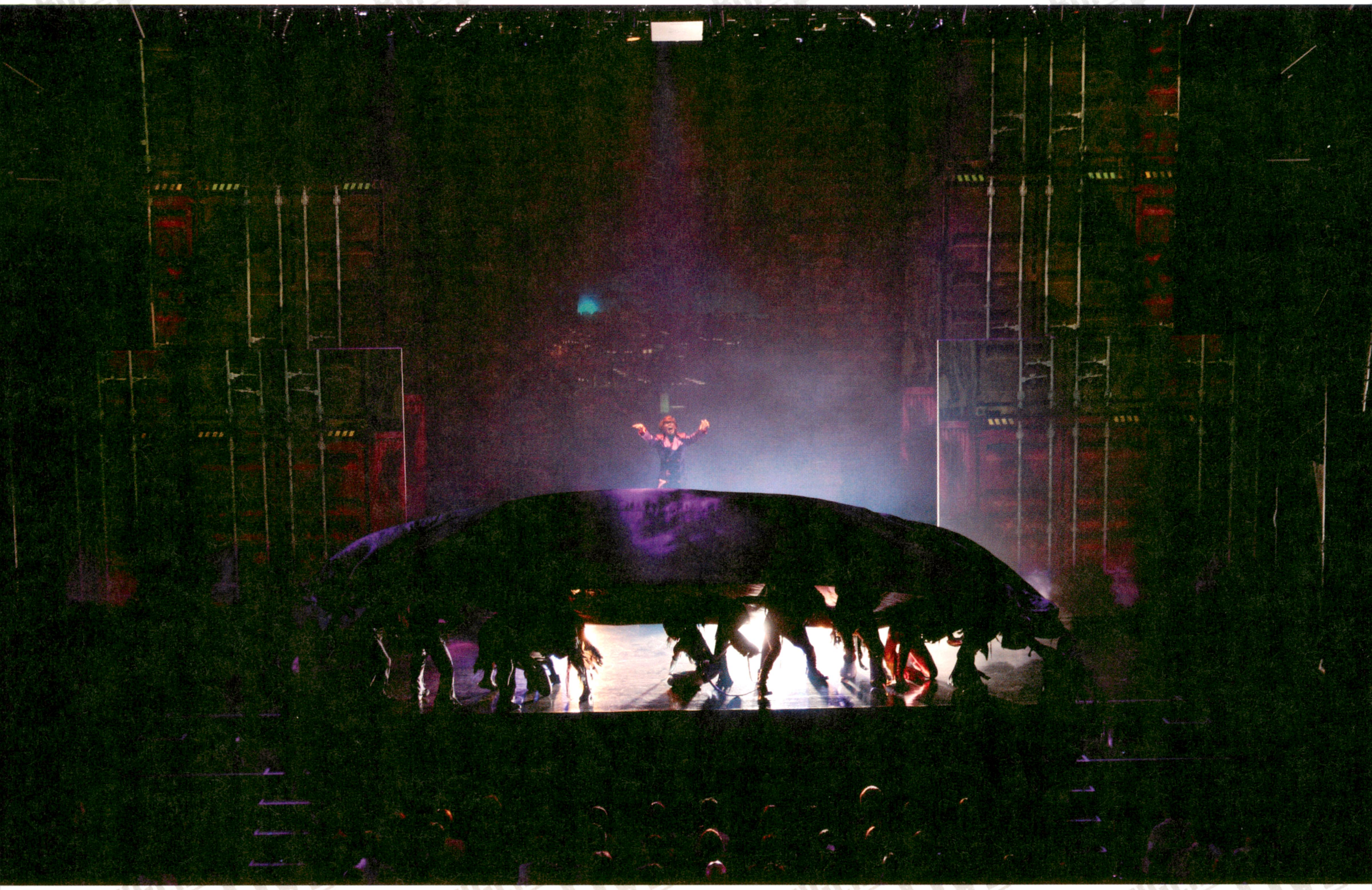
TIGER & BUNNY THE LIVE

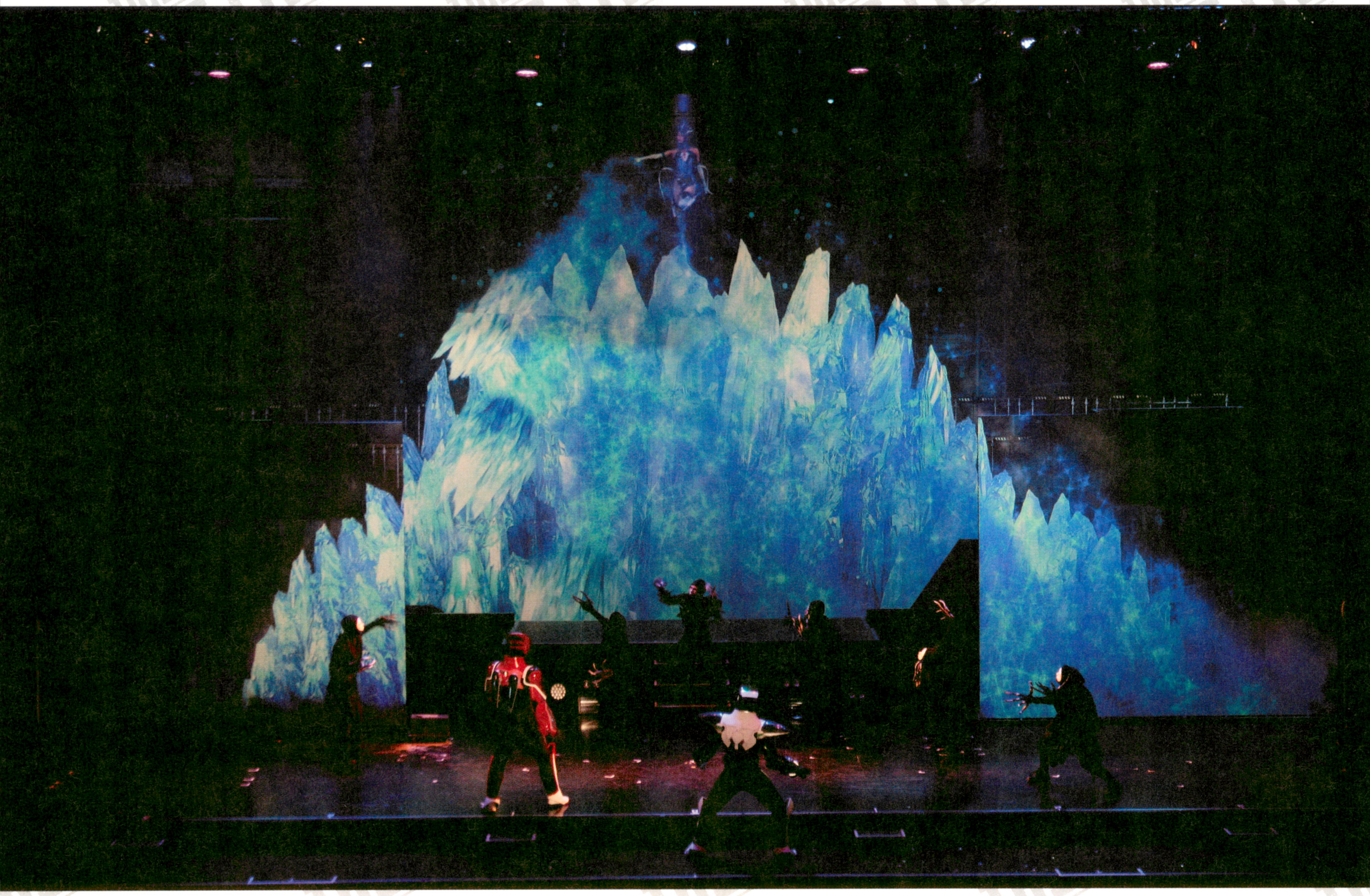
TIGER & BUNNY THE LIVE

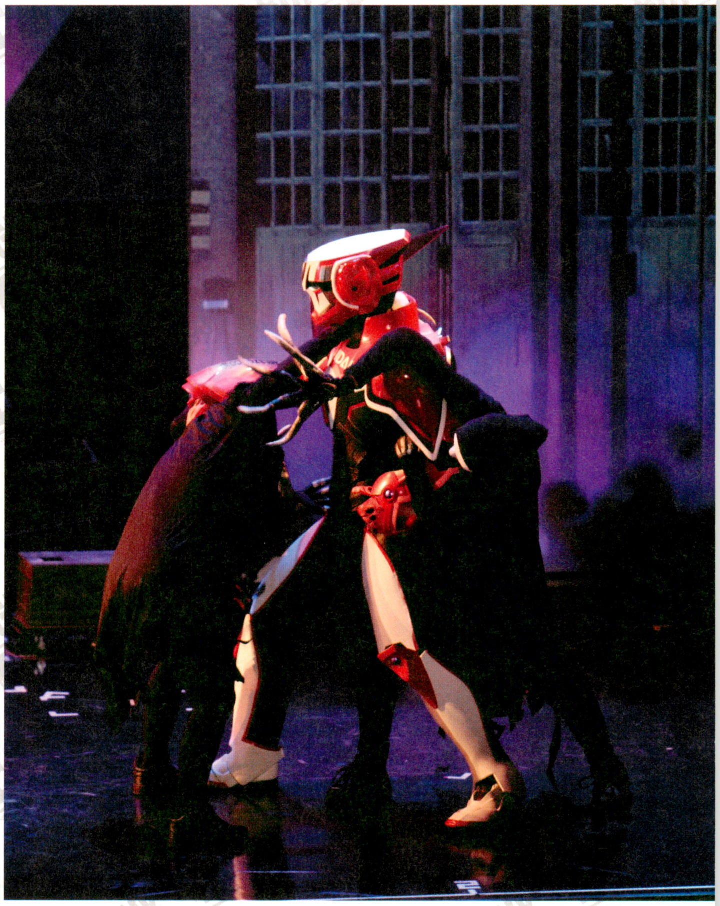


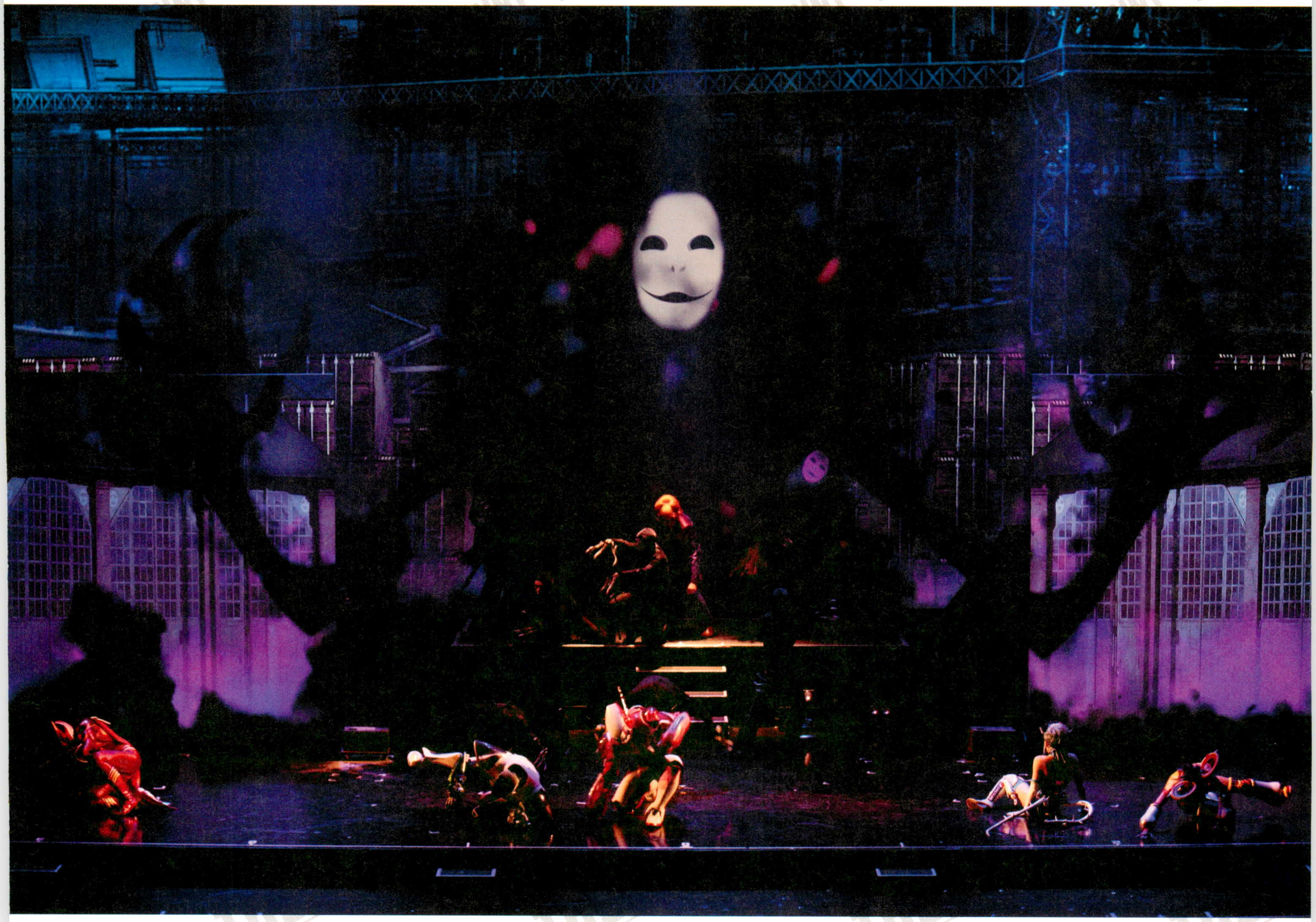


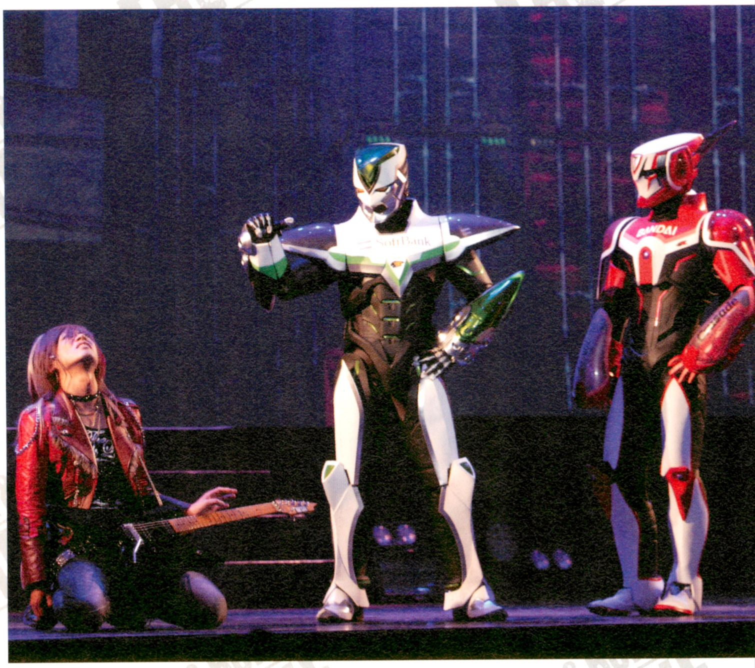












舞台 TIGER & BUNNY THE LIVE 公式ビジュアルブック

2012年9月18日初版発行

原作　サンライズ
監修　「TIGER & BUNNY THE LIVE」製作委員会

2012年8月24日～9月1日 公演
Zepp DiverCity（TOKYO）

発行者　新名 新

発行　株式会社角川書店
〒102-8078
東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8606（編集）

発売　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8521（営業）
http://www.kadokawa.co.jp

印刷・製本　大日本印刷株式会社

落丁・乱丁本はご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。
本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の
譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、
たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

©SUNRISE/T&B PARTNERS, MBS
2012 KADOKAWA SHOTEN.Printed in JAPAN

ISBN978-4-04-110288-6　C0076

Chief Editor
梶井 斉

Editor
大野咲紀

Photographer
福岡諒祠

taro
関根 孝
大島央照
河村和男

Writer
キツカワトモ
垳田はるよ
鳥本真也
上野磨位

Designer
吉田明加（designCREST）
清水嘉子（designCREST）
稲垣好重（designCREST）

Editorial Cooperation
福留一輝
井原 歩

Special Thanks
サンライズ
ジャパンアクションエンタープライズ
フォレスト・エンターテイメント

ひらたプロダクションジャパン
青二プロダクション
エヴァーグリーン・エンタテイメント
ジャスティス
アルファコア
アイスモデルマネジメント
タンバリンアーティスツ
ヨギプロダクション
ファンタイム
ハイスピードボーイズ
ダブルアップエンタテインメント
（敬称略・順不同）

舞台
TIGER & BUNNY THE LIVE
公式ビジュアルブック

9784041102886
1920076013003
ISBN978-4-04-110288-6
C0076 ¥1300E
定価：本体1300円(税別)
発行:角川書店

舞台
TIGER & BUNNY THE LIVE
公式ビジュアルブック

特製ブロマイド
タイガー&バーナビー(2枚入り)

●この袋から取り出す際、誤ってブロマイド本体を破った等の自己破損の場合は、返品・交換に応じかねますので、あらかじめご了承ください。
●封入のブロマイドが欠品・破損していた場合は、その現品を、お手数ですが下記住所までお送りください。(カード、袋を破棄なさらないよう、お願いいたします)
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1
角川グループ受注センター読者係 宛
お問合せ電話番号:049-259-1100(※土日祝日を除く9〜17時)

©SUNRISE/T&B PARTNERS, MBS

分売不可

BANDAI
Barnaby
Brooks Jr.

©SUNRISE/T&B PARTNERS, MBS